

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【平成 29 年度～令和元年度】**

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【対象：平成 29 年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策		市内企業の経営支援
主担当課	経済観光課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・むさし府中商工会議所と連携し、経営指導や金融支援などといった経営支援を行い、雇用の確保と地域経済の活性化を目指します。 ・商店街のより一層の活性化に向けた取組を支援します。 ・産・学・金・官の連携等を図り、新たな商品開発や人材交流につなげ、市内産業の振興を支援します。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
融資実行件数	件	300					
		292	283	252	243		
		/	B	C	C		
商店街イベント事業補助金交付商店会数	件	32					
		28	30	30	29		
		/	A	A	A		
技術相談を行った件数	件	470					
		463	456	407	462		
		/	B	C	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>事業資金融資利子補助の制度を見直し（限度額や返済期間の拡大等）市内中小企業における金融の円滑化を図った。過去3年間の申込件数は、平成27年度が340件、平成28年度が304件、平成29年度が285件と減少しており、低金利政策や実行されるまで時間がかかることなどが要因として考えられる。しかし、同時に、金融機関の直接融資を利用する企業が増え、徐々にではあるが、経済が円滑に回り始めていると聞いている。</p> <p>イベント事業に対する補助を継続して行うことで、29商店会、延べ47事業分の商店街の活性化等に寄与する事業への支援を継続することができた。</p>
B	<p>府中市工業技術情報センターへ相談した会社1社当たりの相談件数は平均4件、また、技術相談の結果として製品開発につながった、あるいは開発途中の件数は6件ある。都の施設の充実等により、専門的な技術相談対応から、補助金等申請支援相談や技術情報提供等へ重点を移し支援することができた。また、人材交流としては、産学官連携として6社の交流あつ旋を行い、市内産業の振興を図った。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>事業資金融資利子補助や中小企業退職金共済掛金の補助を継続するとともに、景況や市内中小企業者のニーズを把握し、円滑な経済活動が行われるよう支援していく。</p> <p>イベント事業に対する補助を継続して行うことで、商店街の活性化等に寄与する事業を行う商店会への支援を継続していく。</p> <p>補助金等申請支援相談や技術情報提供に重点を置き、支援を継続していく。また、平成30年度よりむさし府中商工会議所内へ移転し、市内商工業者の相談拠点の一元化により、新たな支援を開拓していく。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>実行件数が厳しい数値であり、目標に対して 57 件、前年比 9 件と減少が続いている。担当課コメントによると申込数も同様に減少が続いているが、毎年 40～50 件近く融資実行に至っていないケースがある。書式の不備等による単純ミスといったものか、申込者と制度のミスマッチがあるのかを検証があると良いのではないか。一因として実行までの時間がかかる面が挙げられているが、実態に応じた制度設計の見直しや制度自体の周知についての状況を整理することも検討してほしい。</p>
B	<p>毎年目標数 32 件には達しておらず、平成 29 年度は前年比 1 件となっているものの目標件数、実行件数共に誤差の範囲内であり着実に進んでいると評価できる。</p> <p>平成 29 年度は前年比 55 件の急激な増加であり、以前の水準に戻した状況が見て取れる。担当課コメントによると相談が成果に結び付いており、相談拠点の一元化と併せて目標達成に向け順調に推移していると考えられる。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策		多様な人材の就労支援
主担当課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労意欲のある方が積極的に地域で活躍できるよう、若い世代の就業機会の拡大、働く意欲のある高齢者の就業機会の提供などを支援します。 ・ 講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援するとともに、市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組についての啓発を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
いきいきワーク府中の就職率	%	36.8					
		32.1	27.2	26.4	24.8		
			C	C	C		
女性向け再就職支援の講座数	講座	現状値以上					
		5	5	5	4		
			A	A	A		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>高齢者の職業紹介事業は自所求人開拓を積極的に取り組み、就職者数215人、来所者数1,787人、自所開拓求人数2,035人となり、再就職につなげている。KPIについては就職者数とともに、都内でもトップレベルの実績をあげているが、定年の引上げ等により高齢者の就労機会がさらに厳しさを増すなかで、新規求職者が増え続けているため、KPIの低下が生じた。</p> <p>新たな取組として市とセブン・イレブンの地域活性化包括協定に基づき「シニア向けお仕事説明会」を開催し、13人が就職する成果を得た。</p>
B	<p>また、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センターと共催等で、就職支援セミナー、合同就職面接会を行った。</p> <p>再就職支援講座を4講座（延20回）実施し、出産や介護等の理由により離職した女性の再就職を支援した。受講者113人のうち、就職につながった人数は24人。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>ハローワークの求人情報に加えて、勤労者福祉振興公社が独自に集めた求人情報を提供して実施する概ね55歳からの無料職業紹介事業「いきいきワーク府中」に対して引き続き支援していく。求人数及び就職者のニーズに対応するため、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センター等と連携を図り、再就職支援講座や就職面接会を行い、高齢者の再就職を支援していく。</p> <p>引き続き、講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援していく。</p>	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>実績については、目標達成率 12ポイント 前年比 1.6ポイントという結果で目標に対する評価としては厳しいが就職件数は横ばいで推移しており、現状の雇用情勢から見ると概ね評価できる数値と思料する。取組自体は積極的に行っていると思われるので今後、ハローワーク等関係機関と連携を強化し、就職数向上により目標就職率の向上を図ってほしい。</p>
B	<p>女性向け再就職支援講座は目標現状値で28年度18回のところ20回実施と良好に推移している。講座数が5から4となっているが必要度により回数を重視したものと思料する。今後も求職者ニーズに合わせた効果的な運営を継続してほしい。</p>

評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	2	起業・創業の推進による産業構造の多様化
具体的な施策		起業・創業の支援
主担当課	経済観光課、協働推進課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業・創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、相談体制を確保するとともに、セミナーなどにより、起業・創業希望者を支援します。 ・ 東京農工大学をはじめとする教育機関や市内団体等と連携し、コミュニティビジネスの立ち上げや、インキュベーションオフィスの活用も含め、商・工・農における起業や創業に関する多様な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
起業・創業に関するセミナー参加人数	人	90					
		44	115	80	62		
		/	A	B	B		
コミュニティビジネスに関するガイダンス・個別相談の参加人数	人	24					
		6	24	10	28		
		/	A	B	A		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、創業支援事業計画に基づく創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保することができた。また、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾については6回、延べ62人の参加があり、創業希望者の継続的な支援を行うことができた。</p> <p>また、平成29年度から創業支援プロジェクト機関を拡大し、日本政策金融公庫を新たに迎え、幅広い支援ができるよう連携して事業を行った。</p>
A	<p>平成29年度は、前年度に引き続きガイダンス及び個別相談を実施し、13回延べ28人の参加があった。また、市民活動センターを開館し指定管理者業務とし、普段の窓口業務でも軽微な相談を受ける体制をとり、ガイダンスまたは個別相談の参加促進を図った。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>創業に関する基礎知識や事例、各種補助・制度の情報などについて、創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保していく。また、創業支援プロジェクト機関における創業に関するセミナー及び創業塾の開催を継続し、創業希望者の支援や創業希望者どうしの交流の場をつくっていく。</p> <p>平成30年度より、ガイダンス（入門講座）については市民活動センターの指定管理者等が行うことで、普段の窓口業務で軽微な相談をした方にガイダンスへの参加を案内するなど、ガイダンス（入門講座）または個別相談の更なる参加促進を図る。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>実績値が2年連続で減少しているため、担当課で実績値が減少している要因をしっかりと分析してほしい。さらに、セミナー参加者のうち、何人が起業・創業につながっているのか、後追いもしてほしい。</p>
B	<p>また、平成29年度の取組内容と評価で、相談体制を確保するとともに、創業支援プロジェクト機関を拡大しており、その効果が平成30年度の実績につながることを期待したい。</p> <p>目標値を上回る実績になっているため、その取組の成果が出ていることは評価できる。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	経済観光課、広報課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や市内の事業者、企業、学校等と連携を図り、市の魅力を発信して、来訪者の増加を図ります。また、市民に対しては、市の魅力を再認識してもらい、住み続けたいと思う市民を増やします。 ・府中市の魅力を再発見を行政だけでなく、市民、各種団体等と協働で取り組み、「武蔵国 府中大使」や様々な機会・媒体を通じて発信し、にぎわいの増進を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
京王線府中駅における 1 日の乗降人員	人	現状値以上					
		85,279	86,949	88,100	90,224		
		/	A	A	A		
市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合	%	15.0 以下					
		17.7	17.3	17.4	17.0		
		/	B	B	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>漫画「ちはやふる」タイアップスマートフォンアプリを開発、デジタルスタンプラリーを実施してファンの誘客を図った。観光情報センター周辺の案内表示を多言語化したほか、英語版観光マップを元に中国語（繁体字・簡体字）と韓国語版を制作し、東京都観光情報センター等の観光拠点やホテル等に配布し、外国人観光客への対応を強化した。</p> <p>広報紙を行政情報アプリ「マチイロ」で掲載開始したほか、拠点配布として、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルK・サンクス、東京外国語大学、東京農工大学等で配布した。ふちゅこまツイッターを開始した。市勢要覧を刊行した。駅前案内板では、府中競馬正門前・是政・競艇場前・北府中駅（各1基）、西府駅（2基）の多言語化を実施した。</p>
B	
【平成30年度における取組など】	
<p>「ちはやふる」を活用した市内回遊促進事業を実施する。京王電鉄実施の「ちはやふる」事業と同時開催し、相互に告知等で協力、市外からの誘客強化を狙う。成田空港に動画を掲出し、来日観光客に府中をPRするとともに、SNSで情報発信を行い、外国人観光客が府中を知り、興味を持つきっかけを作る。京王線沿線市とは、連携して魅力発掘のためのワークショップやフィールドワークを開催、南武線沿線市とは、SNSを活用したフォトコンテストを実施し、効果的な情報発信を行う。</p> <p>広報紙・テープ広報の年36回発行、ホームページの適正な管理・運用、メール配信サービス及びツイッターの管理・運用、テレビ広報を年36本製作・放映、市マスコットキャラクターの管理・運用を行う。より多くの市民に広報紙を読んでもらうため、特集ページの作成を検討する。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>実績は増加しているともいえるが、自然増の範囲とも考えられる。できるだけ自然増の影響を避け、来訪者の増減の評価により近づけるため、曜日別・時間帯別などの分析を試み、今後の取り組みに活用してほしい。</p> <p>また、近傍他市の駅、例えば調布駅などとの乗降客数増減との比較も施策の評価に有効と考える。</p>
B	<p>「市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合」は27年度、28年度に続き、29年度も停滞傾向が続いている。目標には未達であるが、市の施策が効果をあげつつあり、目標達成に向け概ね順調に進んでいると考える。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	経済観光課、政策課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中駅周辺のエリアマネジメントを推進し、にぎわいを創出することで、中心市街地の活性化を図ります。 ・ラグビーワールドカップ日本大会及び東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、日本全国に、そして海外に府中市の魅力を発信するとともに、地域が一体となって国内及び海外からの訪問者の受入環境の充実・強化を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
休日のけやき並木通りの歩行者交通量	人	現状値以上					
		19,378	19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	-	C	A		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>・平成29年7月には、府中駅南口市街地再開発事業の最終地区となる「ル・シーニュ」が開業を迎えた。これに際し、平成28年12月に設立したエリアマネジメント組織「一般社団法人まちづくり府中」が中心となり、府中駅南口に立地する大規模商業施設が連携した合同セール「キテキテ府中」及び市内大学と連携した「FUCHU WORLD FESTIVAL」が開催され、にぎわいが創出された。</p>
A	<p>・市から同法人への委託事業として、けやき並木通り南西部にある未利用市有地の活用に向けた実証実験として、チャレンジショップの運営を行ったほか、東京競馬場来場者を中心市街地に呼び込むためのタイアップ事業として、スマートフォンを活用したスタンプラリーを実施した。加えて、年末年始には、中心市街地への来訪者をもてなすための竹あかりライトアップ事業を実施し、にぎわいの創出に寄与した。</p> <p>< K P I の調査条件について ></p> <p>測定日時：平成29年9月24日（日）7時から19時（合計12時間）</p> <p>場 所：けやき並木通り（ル・シーニュ前）</p> <p>天 候：晴れ</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>・お店の人が講師となって、専門知識やプロのコツを無料で教えるコミュニケーション事業「むさし府中まちゼミ」を一般社団法人まちづくり府中の主催で実施し、各店舗や店主の魅力を発信することで、にぎわいの創出につなげる。</p> <p>・東京競馬場タイアップ事業は、平成29年度に実施したデジタルのスタンプラリーの手法を基本としつつ、アナログ的手法の活用や協力店舗の業種を拡大することで、参加者のさらなる増加を目指し、にぎわいの創出につなげる。</p> <p>・平成29年度までむさし府中商工会議所が主催していた「府中マルシェ」を発展させた新たなにぎわい創出事業を検討し、年2回程度実施する。</p> <p>・竹あかりライトアップ事業は、今後のラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックで、さらに多くの方が府中を訪れることを見据え、実施時期や見せ方を工夫し、より印象的なライトアップを行う。</p>	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>府中駅南口で最後に残っていた府中駅南口市街地再開発事業の地区に「ル・シーニュ」が開業し、「ル・シーニュ」を含む府中駅周辺の大規模商業施設が連携した「キテキテ府中」等のイベントや未利用地活用によるチャレンジショップの運営、スマートフォン活用のスタンプラリー、「竹あかりライトアップ」などの各種事業がなされたことは、評価できる。中心市街地の更なる賑わいの創出に向けて、各種事業の認知度を高める取組に努めてほしい。</p>
A	<p>けやき並木の通行量調査日はイベントのない日に実施したものであり、K P I 数値は大幅にアップしていることは評価できる。しかし、K P I の測定は年 1 回のみで、季節やイベントの有無などの状況によっては数値が大きく変動してしまう可能性があるため、計測を毎年度同時期に実施するとともに、他の施策の K P I である「府中駅の乗降客数」との関連性を分析してほしい。</p> <p>今後ともまちの賑わいにつながる事業の推進とともに、官民協働による取組みを継続的に実施してほしい。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成		
基本的方向	2	郷土への愛着を感じるふるさと意識の醸成		
具体的な施策		歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実		
主担当課	文化生涯学習課、スポーツ振興課		関連課	ふるさと文化財課、美術館
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の伝統芸能や芸術文化を継承していくとともに、文化施設や歴史・文化遺産を活用して、郷土愛を持てるまちを目指します。 ・スポーツタウン府中の発展に向け、各種競技団体、市内の大学や市内を活動拠点とするトップチームなどとの連携を深め、府中市ならではの事業を展開します。 			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
郷土の森博物館 及び美術館の 入場者数	人	533,000					
		489,602	498,579	569,685	530,738		
		/	A	A	A		
大学やトップチーム と連携する事業数	事業	3					
		2	2	3	4		
		/	A	A	A		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>郷土の森博物館では、プラネタリウムのリニューアル工事（10月～翌年4月末）に伴い、投映を一時休止及び休館したことにより、入場者数の目標値には達しなかったが、計画的な植栽管理による梅まつりの実施や魅力ある特別展を開催し、一定の成果（H29年度入館者数283,766人）を得たため、評価Aとした。美術館では、企画展・公開制作・鑑賞教室等を実施するとともに、市内で活動する個人・団体の展示による市民ギャラリーの利用（H29年度の総入場者数246,972人）など一定の成果を得た。</p>
A	<p>総合体育館では、市特有の事業として、トップチームによるフットサル教室及びチアダンス教室等を実施した。参加者からこれを機会に競技を始めたいとの多数の声が集まり好評を得た。</p> <p>市指定の無形民俗文化財である府中囃子は、年間を通じ、演奏技術の伝承を継続して支援するとともに、演奏を収録したCDを作成し、市内外に広く周知を行った。武蔵国府太鼓は市民を対象とした講習会を継続して実施した。市史編さん事業では、東京外国語大学と連携し、近世古文書の調査並びに近代行政文書の件名目録作成による整理を実施した。また、東京農工大学と連携し、自然調査（植生、土壌、大気等）の実施により、大きな成果を得た。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>郷土の森博物館では、特別展・企画展の実施や、常設展、梅まつり等を継続して実施することで、郷土愛の醸成につながる取組とするほか、リニューアルしたプラネタリウムを活かした事業を実施し、来場者数の増加を図る。美術館では、企画展、常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高めるとともに、天井等を改修し、安全性を向上させる。</p> <p>平成29年度においても目標事業数の「3」を達成できた。今後は事業を継続するとともに、参加者満足度の向上のため教室内容を工夫することにより、更なる充実を目指していく。</p> <p>府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成を継続して取り組む。武蔵国府太鼓の演奏を収録したDVDを作成し、市内外へ広く周知を図る。市史編さん事業の中で、引き続き市内の大学（東京外国語大学・東京農工大学）と連携して調査を進める。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>昨年度よりも減少し、目標値に達しなかったものの、郷土の森博物館がリニューアル工事の中、様々な展示や行事を行ったことで一定の成果が見られたことは評価できる。また、ほかに減少した要因がないか解明に努めてほしい。今後は、リニューアルしたプラネタリウムをアピールしていくことや、展示や行事の継続を行うことで、入場者の増加を図ってほしい。</p>
A	<p>目標値を達成し、昨年度と比較しても事業が増加している点で評価できる。今後も、府中市ならではの歴史や文化の継承や、市民がスポーツに親しむことができるような取組の継続を行い、新たな取組にも期待したい。そして、継続していく上での課題がないか検討してほしい。また、参加者満足度向上のため教室内容を工夫するとあるが、その際には、参加者のニーズの把握に努めてほしい。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策		安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実
主担当課	子育て支援課、健康推進課	
施策概要	・妊娠期からの子育て不安の解消に向けて、適切な情報提供を行うとともに、各種健診や教室などを実施します。また、出産前後の家庭の育児や家事を支援し、出産に係る母親の負担感の軽減を図ります。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
Fu-CHU こそだて サイト「ふわっと」 アクセス数	人	現状値以上					
		24,807	26,924	23,887	50,146		
			A	B	A		
産前産後家庭 サポート事業の 新規登録世帯	世帯	現状値以上					
		213	224	220	213		
			A	A	A		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>子育てサイトをリニューアルするとともに、アプリを配信開始し、幅広く出産や子育ての支援に関する情報提供を行い、育児に係る不安解消等を図った。</p> <p>産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安解消等を図った。</p> <p>妊娠届出を行った全妊婦を対象として妊婦健康診査、超音波検査、HIV抗体検査、子宮頸がん健診の費用助成（対象者2,096人、延べ25,874件）をした。また、母親学級を年10回、両親学級を年10回実施し、延べ662人の参加があった。離乳食教室、年59回（参加者延べ1,415人）、親と子の歯みがき教室年11回（参加者延べ244人）を実施した。必要時、健診・教室から助産師及び保健師の相談や訪問につなげ、妊娠期から出産や育児についての不安の解消や子育て支援を行った。母子の保持増進及び安心して子供を産み育てるための環境づくりに役割を果たした。</p>
A	
【平成30年度における取組など】	
<p>市民がより情報を得やすくなるよう、子育てサイト及びアプリの適切な運用を行うとともに、情報の得にくい外国人向けに子育てサイトに多言語翻訳機能を搭載する。また、リーフレットの改訂・配布を行うほか、メール配信サービス等によりさらなる周知を図る。</p> <p>引き続き、産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児不安の解消を図る。また、より多くの市民に利用してもらえよう、リーフレットを改訂し、母子健康手帳交付時に配布するほか、子育てサイトやメール配信サービス等により周知を図る。</p> <p>平成30年4月から子ども家庭支援センター「たち」と連携型で子育て世代包括支援センターを立上げ、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を充実させていく。</p>	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>子育てサイトをリニューアルし、アクセス数が倍増したことは評価できる。今後は、外国人向けに情報を発信したり、市民団体のサイトへリンクするなど、更なる充実に努めてほしい。また、サイトの利用者が育児に係る不安などを気軽に相談できるよう、機能の充実に努めてほしい。</p>
A	<p>きめ細やかな支援が提供されていると思うが、KPIが減っている。KPIを増やすには、近年、貧困家庭も増えているため、孤立した家庭まで行き届き、地域や市民と連携し、さらには見守りとしての事業として増えていく事も必要と思う。市民や子育て世代包括支援センターなどと連携し、さらなる充実に期待したい。</p> <p>また、KPIが2年連続で減少しているため、減少した原因を分析し、これ以上減少しないよう対策を講じてほしい。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策		安心して子育てができる環境の整備
主担当課	子育て支援課、保育支援課、健康推進課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に乳幼児の各種健診や訪問を行い、発育と発達の状況把握や疾病の早期発見に努めることにより、医療などと連携したきめ細かい保健指導を行います。また、各種予防接種を実施し、子どもの健康を守ります。 ・待機児童の解消に向け、既存施設の有効活用などのソフト面の手法と施設の整備などによるハード面の手法を併用することにより、保育サービス量の拡充に取り組むとともに、保育の質の向上を目指します。また、地域の様々な人材や団体、施設などの社会資源との連携や協働を図り、地域全体で子ども・子育てを支える環境づくりを進めます。 ・子ども医療費助成など、経済的な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
新生児訪問実施率	%	97.0					
		86.9	86.1	80.7	88.8		
		/	B	C	B		
特定教育・保育施設の数	箇所	54					
		47	50	52	54		
		/	A	A	A		
安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合	%	50					
		48.5	50.3	49.6	49.7		
		/	A	B	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>新生児訪問では発育状況の確認や子育て相談や情報提供を行い、母子の健康増進と子育て不安の解消に寄与した。里帰り先で訪問を希望する家庭には里帰り先の自治体に訪問依頼をし、対応した（都外医療機関（助産院含む）妊婦健診者数平成28年449件、平成29年357件）。新生児訪問を未利用の家庭には、3～4か月児健診等で状況確認を行った。3～4か月児健診98.1%、1歳6か月児健診95.6%、3歳児健診94.8%。平成29年4月から9月の間、B型肝炎ワクチン特例接種を実施し接種の機会を確保した。予防接種ナビちっくんの登録者数は平成29年度末8,056人と増加し平均予防接種率は92.9%で健診とともに高水準を維持し子供の健康維持の役割を果たした。</p> <p>認可保育所（私立保育園）の整備事業候補者を公募し、選定した事業者候補に対する施設整備に対して開設準備支援を実施し、平成30年4月1日付けで認可保育所を4施設（本園3、分園1）開設したほか、私立幼稚園4園において幼稚園型一時預かり事業を開始するなど、多様な保育サービスの充実を図った。</p> <p>また、市内保育施設に対して、市職員による巡回支援や保育従事者を対象とした研修などを実施し、保育の質の向上を図った。</p> <p>子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図るため、市内11か所で子育てひろば事業を実施したほか、市保育士やボランティアによる子育てひろばや市民団体の子育てひろば活動への補助を行った。義務教育終了前までの児童を対象に医療費の助成や児童手当の支給を行い、子育て家庭の経済的負担の軽減を図った。</p>
B	
【平成30年度における取組など】	
	<p>平成30年4月から子育て世代包括支援センターに伴い、妊娠届出時に看護職による全件面接を実施する。新生児訪問等サービスの案内を行い各種サービスの実施率の向上に努める。また、必要に応じて保健師の継続相談等につなぎ早期から支援できる体制を継続する。健康診査では子どもの健康増進と共に子育て支援の機会になるよう実施する。予防接種は安全に実施されるよう予防接種ナビは継続実施し、市民及び協力医療機関への情報提供等に努めていく。</p> <p>引き続き、認可保育所等の保育施設の整備を行うほか、私立幼稚園などの協力を得ながら一時保育・定期利用保育などの保育サービスの充実を図るとともに、保育コンシェルジュによる相談窓口業務を通じて、各子育て世帯に応じた保育サービスの提案を行う。</p> <p>地域で子育てひろばを展開するとともに、市立保育所の地域子育て支援拠点の整備を進める。また、手当・医療費助成とともに継続して法令等に基づき実施をすることにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。</p>

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>新生児訪問実施率は88.8%と目標値を下回ってはいるが、里帰り先の自治体に訪問依頼を実施したり、未利用の家庭はその後の検診で状況確認を行っているなど、適切なフォローがなされており実質的には目標値に近い水準の保健指導が行われていると判断できる。また、予防接種の接種率の向上につとめていることも高く評価できる。</p>
B	<p>認可保育所等の新たな開設など、待機児童の解消に向けた取組みが着実に実施されている。ただし、府中市は待機児童数が全国的にも依然高水準にあり、継続した取組みが必要であるため、今後も多様な保育サービスの提供に努めてほしい。</p> <p>子育て家庭への相談事業のほか、経済的支援など多角的な支援も行われており、安心して子育てができると感じる市民の割合は目標値にかなり近い水準にある。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策		防災・防犯体制の強化
主担当課	防災危機管理課、地域安全対策課	
施策概要	・全ての市民が安心して暮らし続けられるよう、地域の防災・防犯体制を強化するとともに、災害に強い都市基盤づくりを進めます。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
日頃から家庭で災害に対する備えをしている市民の割合	%	80.0					
		62.2	57.4	62	55.8		
			B	B	C		
地域安全リーダー講習会受講者数	人	450					
		311	332	354	374		
			A	A	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>防災の基本である自助について、広報番組「まるごと府中」や職員の出前講座等を通じて、家庭でできる取組（家具の転倒防止、災害用持ち出し袋の備蓄等）の必要性を説明してきた。また、市内の文化センター圏域ごとに自主防災連絡会において、昨年度、明らかにした防災上の課題から「安否確認活動」を取組のテーマに設定し、自治会等ごとに防災対策を検討し、行動計画の作成に取り組んだ。また、新たに水害ハザードマップを作成し、全戸配付を行い、水害のリスクと対応などについて周知した。</p> <p>様々な機会を利用し、市民自らが参加する自主防犯活動の大切さについて啓発活動を行った結果、地域安全リーダー講習会への女性参加者増加につながったが、若年層の参加には至らなかった。（全体20名、女性6名、40歳代以下の若年層0名）</p> <p>また、プロ劇団員による寸劇防犯講話を開催し特殊詐欺被害防止に努めた。（年1回、市民センタープラッツ「バルトホール」で実施）</p>
B	
【平成30年度における取組など】	
<p>引き続き、上記の取組を推進するほか、自主防災連絡会の活動内容について、参加者だけではなく広く市民に周知するため、防災情報紙を新たに作成し、全戸配付を行い、意識啓発を図る。</p> <p>ながら見守り連携協定を東京ヤクルト販売㈱と締結し、これまでに締結した東京都信用金庫協会、宅建取引業協会、不動産協会、府中新聞販売同業組合と合わせ、より多くの目で見守りを行う体制づくりができたことから、今後は府中警察署と連携し、子どもに対する犯罪や特殊詐欺の発生状況などの情報を見守り個所として発信することで、安全で快適に暮らせる持続可能なまちづくりに努めていく。</p>	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>自助については地域ごとの取組みや、情報提供を行っているなど評価できる。現状、市民の備えに対する意識が55.8%と年々低下している。このままでは80%達成が厳しいと考える。次期に防災情報紙を全戸配付による意識啓発に期待すると同時に更なる周知を期待したい。</p> <p>講習会参加者に女性が増えた事は評価できる。いざという時の力になる女性、若年層の参加を促すことに更に邁進してほしい。</p> <p>目標に対し参加者も微増しているが、講習会の回数を増やす、会場を増やす等、更なる受講者数を増やす工夫をしてほしい。</p>
B	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策		公共施設・インフラの計画的な管理及び運営
主担当課	建築施設課、管理課、公園緑地課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメントの取組として、公共施設の最適化と計画的保全に努め、市民が将来にわたり良好な環境で施設を利用できるよう努めます。 ・老朽化が進むインフラ（道路・公園等）を長期にわたり安全に管理していくため、インフラマネジメント計画に基づき、推進します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
公共施設の市民 1人当たりの 延床面積	㎡/人	現状維持					
		2.52	2.49	2.48	2.60		
		/	A	A	B		
公園や都市緑化で 緑あふれるまちと しての市民満足度	%	74.0					
		70.3	76.2 70.0	76.7 70.6	71.1		
		/	A B	A B	B		

進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

指標 「公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度」について、平成27年度及び28年度の実績値が誤っておりましたので、お詫びして訂正いたします。
 また、訂正に伴い、平成27年度及び28年度のKPI評価も変更いたしました。

《内容と原因》

指標 は毎年度実施している「第6次府中市総合計画に関する市民意識調査」の結果により算出しております。調査は「(1)満足」、「(2)まあ満足」、「(3)どちらともいえない」、「(4)やや不満」、「(5)不満」の5択で選択していただく形式となっており、実績値は「(1)+(2)-(4)-(5)」とすべきところを、修正前の実績値は「(1)+(2)」としたものです。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>公共施設マネジメントの取組を進めていく上での実行計画に位置付けている第1次府中市公共施設マネジメント推進プランの計画期間が、平成29年度をもって満了することに伴い、平成30年度以降も着実に取組を進めていくため、広く市民を対象とした意見交換会やパブリックコメントを経て、第2次府中市公共施設マネジメント推進プランを策定した。</p> <p>また、KPIが2.6㎡/人と、前年度と比較して大きく増加しているが、当該指標の算出には、平成29年度末時点における公共施設の総延床面積を用いており、処分等が決定しているグリーンプラザや旧学校給食センターなども含んでいる。これらの処分等が決定している施設を総延床面積から除くと2.48㎡/人となり、昨年度と同じ数値であることから、順調に進捗している。</p> <p>KPIについて、平成27・28年度の実績値に誤りがあったため、お詫びして訂正いたします。27年度は現状値から微減のため、「B」評価、28・29年度も前年度から微増のため、「B」評価とした。</p> <p>公園を憩いの場として市民が快適に利用できるよう、公園・広場や緑道などの清掃や除草、樹木の剪定及び伐採、砂場の殺菌などを行い、適切な管理に努めた。さらに、公園、緑地や市内の公共施設（花壇、フラワーポット等）に四季折々の草花を植え、草花を愛する豊かな心を啓発するとともに、まちの環境美化を促進した。</p> <p>また、平成30年3月に「西原町4丁目公園」を新たに開設し、安全で安心して利用できる公園整備を図り、施設の維持・補修に努めたほか、安全で快適な通行路を確保するため、緑道など、10件の整備を行った。また、公園施設の長寿命化に向けて、公園施設51か所の調査等を行った。</p> <p>なお、インフラマネジメントについては、計画改定のための協議会を立ち上げ、インフラの数量や管理経費等を更新し、府中市インフラマネジメント白書（2017年度）を作成するとともに、当該計画の改定案を作成した。また、インフラマネジメントを推進する取組として、道路等包括管理事業（北西地区）の受注候補者の選定、街路灯・公園灯をLED化するESCO事業、府中市橋梁長寿命化修繕計画の策定などを行った。その他、関連計画である府中市緑の基本計画2009の改定のため、協議会を立ち上げ協議を行った。</p>
B	
【平成30年度における取組など】	
	<p>第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに定めるモデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」について、有識者や公募市民等で構成する検討協議会を設置し、検討を進める。また、モデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」について、平成31年度からの試行的な実施に向けた検討を進める。</p> <p>引き続き、公園の適切な管理やまちの環境美化に努めるとともに、長寿命化に向けた取組を進めていく。</p> <p>また、パブリックコメントを経て、府中市インフラマネジメント計画（2018年度）を策定するとともに、インフラマネジメントを推進する取組として、道路等包括管理事業（北西地区）の試行及び検証、長寿命化計画策定のためのベデストリアンデッキや公園施設50か所の調査及び点検など取組の進行管理を行う。また、シンポジウムを開催し、インフラマネジメントの周知を図る。その他、引き続き府中市緑の基本計画2009の改定のため協議会を開催し、協議を行う。</p>

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>KPI については、2.6 m²/人と前年度と比較して大きく増加しているものの、処分等が決定している施設を除くと2.48 m²/人であり、現状とほぼ同水準であることから、概ね進んでいると評価できる。</p> <p>KPI については、実績値は目標値を下回っている。しかしながら、計画の改定に向けた取組の開始など、現在の取組に加え新たな取組を行っていることから、概ね進んでいると評価できる。</p>
B	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化
具体的な施策		地域交流・活動の促進
主担当課	地域コミュニティ課、協働推進課、指導室	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会的な孤立を防ぐとともに、子どもや学生が地域づくりに関わる機会を持てるよう、幅広い世代の交流を促進し、地域社会を支える共同体の機能を深めます。 ・相互友好協定を結んでいる東京外国語大学及び、東京農工大学及び明治大学をはじめ、市内の企業や市民活動団体等と連携することで、地域課題を市と市民が協働して解決する体制の整備を目指します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
各文化センター圏域でのコミュニティ事業参加者数	人	231,000					
		222,427	228,575	238,754	236,873		
		/	A	A	A		
市と大学や企業等が協働実施している事業数	事業	現状値以上					
		59	56	41	43		
		/	B	C	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>各文化センター圏域でのコミュニティ事業については、地域まつりやレクリエーション大会（運動会）などを全文化センター圏域で実施したほか、片町文化センターの競技かるた初心者大会や紅葉丘文化センターのバードウォッチングなど、地域の特色を活かした各種行事を地域の人々が参加しやすい工夫を凝らしながら市民との協働で提供し実施することができた。</p>
B	<p>大学との協働事業については、市内の大学である東京農工大学や東京外国語大学と協定に基づき、青少年体験事業や市史編さん事業などを実施した。さらには連携体制を構築している明治大学と生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座を実施し、良き協働のパートナーとして定着している。</p> <p>また、企業との連携については、主な事業として、府中新聞販売同業組合や府中プロパンガス商工組合と連携した「高齢者見守りネットワーク事業」や、市内スポーツ団体と連携した「ボールふれあいフェスタ」などの事業を実施した。</p> <p>コミュニティ・スクール事業では、学校と地域とが連携して、各校で地域防災の推進や学習支援の実施、ゲストティーチャーの紹介、サマースクールの開催などの活動が主体的に実施されている。</p>
【平成30年度における取組など】	
	<p>地域の特色を活かした事業を展開し、圏域住民のニーズを勘案した事業の実施に取り組んでいく。</p> <p>圏域ごとの課題への対応については、他センターの成功事例を参考にし、改善を試みる。</p> <p>大学との連携については、引き続き、東京外国語大学、東京農工大学、明治大学と連携した事業を実施する。企業との連携については、株式会社セブン イレブン・ジャパンとの地域活性化包括連携協定や府中新聞販売同業組合等との「ながら見守り連携協定」に基づいた取組など、引き続き企業と連携した事業を実施するとともに、事業内容の更なる充実のため、新規開拓を含めて、引き続き事業を実施していく。</p> <p>コミュニティ・スクール事業については、引き続き、地域の教育力を生かして推進していきたい。また、各校の取組の情報共有を図っていく。</p>

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>事業参加者数が経年的推移でみて安定している点、地域の特色を活かした各種行事を開催した点は高く評価できる。しかし、事業参加者数が前年比において若干の減少（1881人）となっていることから、事業参加者数の減少要因についての解明に努めてほしい。また、前回の協議会評価で要望した、文化センター圏域ごとの課題抽出とその対応策の実行については、本年度において迅速な対応を期待したい。</p>
B	<p>現状値から逡減していた協働事業数が増加に転じた点は評価できる。連携先をみると、「大学」は実績数及び連携内容の多様性からみて高く評価できる。一方、企業との連携は相対的に少ない傾向にあり、新規事業の積極的な創出による連携増加に努めてほしい。</p> <p>また、多様な主体（企業、各種団体、大学）との横断的連携を積極的に図り、各主体の強みを活かすことで、新規性・独自性のある事業創出を期待したい。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(対象:平成 29 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保		
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化		
具体的な施策		空き家などの活用		
主担当課	環境政策課	関連課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	・空き家や空き店舗などは、地域活動に活用できる重要なストックであることから、これらを有効活用し、地域コミュニティ拠点の整備などを目指します。			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
空き家等を活用した コミュニティ活動 事例	人	実施					
		未実施	未実施	未実施	未実施		
		/	C	C	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に設置した附属機関（府中市空家等対策協議会：会長・市長）において審議され、平成29年度に策定された空家等対策計画の中で、空き家利活用の方向性を定めた。（利用可能な空き家について、所有者等に専門相談窓口を案内するなど、市場流通の促進を図る。住宅や福祉、子育て等各部門における施策を進める手段としての利活用について情報の蓄積を進め、必要な場合は各部門で検討していく。）
B	<ul style="list-style-type: none"> 東京都及び調布市と共催で、空き家対策等の推進及び啓発を目的に、懸念される居住環境の悪化、防災面で課題となる空き家問題、利活用の推進など、空き家にまつわる基本的な問題・課題をテーマにしたセミナーを開催した。
【平成30年度における取組など】	
<ul style="list-style-type: none"> 空き家対策の推進に関する特別措置法第3条に定めるとおり、空き家対策の原則は所有者等による自己管理にあるため、空き家利活用についても、府中市空家等対策計画に則り、その原則との整合を図りながら進めていく。 空き家の利活用に関する問合せに対し、専門相談窓口を適切に案内するとともに、東京都及び調布市・狛江市と共催で、空き家の利活用の推進や適正管理の重要性を周知することを目的としたセミナーを開催する。 	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・平成29年度の空家等対策計画が作成され、空き家利活用の方向性を定め、空家対策等推進及び啓発などが進められていることに期待したい。</p> <p>しかし、担当課の進捗状況評価において、空き家等を活用したコミュニティ活動の具体的な施策はないため、空き家を活用したい方々向けのセミナーを開催するなど、目標達成に向けて取組を進めてほしい。</p>
B	<p>平成30年12月に“World Habitat Awards”「最優秀賞」を受賞したNPO法人「リトルワズ」(東京)の取組を紹介する。</p> <p>リトルワズは2012年より母子家庭を対象にした居住支援を実施し、住宅を提供するだけでなく、生活の支援を同時に行い、母親と子供の生活に貢献している。また、社会問題である空き家も活用し、リノベーションして、住めるような住宅にしたり、物件所有者にも活用を提案している。東京都をはじめとした行政機関、不動産専門企業、地域団体とも連携しながら、母子家庭に住まいを提供し、6年間で300世帯以上を支援した。</p> <p>(リトルワズ ホームページ、2019年1月22日朝日新聞記事より引用 https://ameblo.jp/littleones/entry-12425763756.html)</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

**具体的な施策・重要業績評価
指標（KPI）進捗状況評価票
（地方創生関連交付金対象事業）
【対象：平成29年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	ラグビーのまち府中推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを新たな地域資源として捉え、様々なイベントの実施などによりラグビー人気の定着を図るとともに、PR活動の推進、市内の子どもたち向けラグビー教室の開催などにより、市内外において「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させます。 ・「ラグビーのまち府中推進委員会」を立ち上げ、イベントの実施などを官民協働で実施することで、まちの賑わいづくりにおける共通認識とビジョンの共有を図り、将来の中心市街地活性化および商業の活性化に繋がります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標 (H28 年度)		目標 (H31 年度)		
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
ラグビーに関連する特産物や商品、飲食メニューの開発(市内ラグビー関連スポット)	件	5		20		
		0	3	3		
		平成27年度の実績	B	C		
市内でのラグビー関連イベントの参加者	人	5,000		10,000		
		1,500	7,500	8,750		
		平成27年度の実績	A	A		
大学やトップチームと連携するラグビー関連事業数	事業	2		9		
		2	5	8		
		平成27年度の実績	A	A		

休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	C	A		
市内にラグビーチームが存在することを認知している市民の数	人	257,650				
		128,052	-	171,853		
		平成27年度の実績	-	A		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>平成29年度は、前年度に発足した「ラグビーのまち府中推進委員会」の活動が2年目となり、前年度から発展させた各種取組を実施した。</p> <p>指標 に関連では、トップリーグ2チームや大学ラグビー部との協働事業を継続拡大し、参加者・事業数ともに増加となり、これに伴い指標 にあるチームの市民認知度も大幅に増加する結果となった。</p>
B	<p>一方で、指標 に関連するラグビー関連商品等の開発販売については伸び悩んでいる。市内企業と連携し、商工会議所・商店街連合会・食品衛生協会府中支部等へ、協力の打診を行ってはいるが、具体的な商品開発までには至っていない状況である。引き続き、関係者との調整等を行い、具体化に向けた検討を行ってまいりたい。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>ラグビーワールドカップ2019開催1年前となる平成30年度は、公認チームキャンプ地が決定していくため、このPRと一体となって「ラグビーのまち府中」PR事業を相乗的な展開を図っていく。</p> <p>のラグビー関連商品開発については、引き続き、商工会議所・商店街連合会のほか、観光協会・まちづくり府中・市経済観光課、市内事業者等と連携し、商品開発に限らず飲食店のメニュー開発など幅広い視点で検討を進めていく。</p> <p>に関連しては、平成29年度からの事業を継続して展開するとともに、ラグビーワールドカップ2019に関連したイベント（公認チームキャンプ地となった国・チームをPRするイベント）等を実施することにより、イベントへの参加者及び協働して実施する事業数の拡大を目指していく。</p>	

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・ K P I については目標値に対して大幅な未達となっており、改善や工夫が必要である。事業者にとっては、売上につながらない商品の開発・製造・販売は難しく、一つの企業に負担がかかると継続しにくいいため、協力依頼だけにとどまらず、他の指標の数値の向上とともに、売上拠点、人員、サポート体制を含めた総合的な検討を行っていく必要がある。</p> <p>例えば、東芝ブレイブルーパスやサントリーサンゴリアスの選手に人気のメニューや試合前の勝負メシなどを紹介してもらい、レストランや居酒屋で店ごとにアレンジして提供していただくことで、特別な食材でない限り、協力店が増える可能性がある。</p> <p>市民がラグビーに親しみをもつ機会をつくることで、府中市の魅力としてラグビーを生かすことができるため、さらなる取組を期待したい。</p>
B	<p>・ K P I 及び の増加から、取組が順調に進展しており、府中市民がラグビーを身近に感じる事が定着してきていることがうかがえる。K P I 及び の関連事業を継続的に拡大していくことによって、K P I も増加傾向で進捗していくと考えられる。</p> <p>・ K P I については、現状順調に推移しているが、本事業との関連性を明確にしてほしい。</p> <p>・ 今後もラグビーのまち府中としての P R のほか、市民が身近なスポーツとしてラグビーを感じるような取組に努め、今後も取組が発展するよう期待したい。</p>

評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	経済観光課	
事業概要	・国内外で普及しているかるたコンテンツやかるたを題材とした人気漫画「ちはやふる」を活用し、同作品ゆかりの地である滋賀県大津市、福井県あわら市、東京都府中市の3市と、関連企業、商業施設などが官民で連携することで、かるたコンテンツを発信し国内外からの観光客を誘致します。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		85,279	88,100	90,224		
		平成26年度の実績	A	A		
京王線分倍河原駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		89,249	92,493	94,116		
		平成26年度の実績	A	A		
府中市主要観光施設 (観光情報センター・観光物産館・郷土の森博物館・美術館・JRA競馬博物館・サントリー武蔵野ビール工場)観光入込客数	人	1,000,000				
		819,625	956,817	939,931		
		平成27年度の実績	A	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>「ちはやふる」とタイアップしたスマートフォン向けのデジタルスタンプラリーアプリを開発、イベントを実施した。作品で登場する場所のほか、市内店舗などをラリーポイント等に設定、紹介することで参加者の市内周遊を促した。各ポイントではクイズが出題される形式で、問題を作品や百人一首、府中市に関するものだけでなく、ともに作品の舞台となっている大津市、あわら市に関連するものにして連携のPRを図った。また、片町文化センターにて、地域のかかるた会が主催している初心者かるた大会は、引き続き開催に協力した。KPIの が減少した要因については、郷土の森博物館のプラネタリウムが、平成29年10月10日から平成30年5月1日まで改修工事をしていたことが要因の1つと考えられる。</p>
A	
【平成30年度における取組など】	
<p>「ちはやふる」の主人公達が府中市に住んでいることから、これまでに制作したロケ地マップという切り口ではなく、主人公達が府中の見どころを紹介するガイドマップを制作する。そして、掲載されている店舗や施設を巡り、そこに設置されたパネルに書かれた文字を集め、キーワードを完成させるラリーイベントを実施する。また、京王電鉄でも「ちはやふる」とタイアップした、京王線の駅を巡るスタンプラリーが実施される予定である。そこで、実施時期を合わせ、京王線のラリーに府中駅を加えてもらうことで、参加者が2つのラリーに同時に参加できる仕組みを作る。さらに、互いに広報や告知の協力をすることで、単独で実施するよりも大きな規模での誘客を行なう。例年実施している片町文化センターでの初心者かるた大会は、引き続き地域のかかるた会に協力して開催する予定である。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I 及び については、順調に推移している点は評価できる。取組内容からも「ちはやふる」をきっかけに、府中市を訪れる人々に対して、地域の魅力を知ってもらえるような仕掛けがよく考えられている。また、かるた大会は定着していけば、府中市の新しい魅力となっていく可能性もあるのではないかと考える。例えば、府中市出身者の競技かるた選手や、京王線沿線出身の選手を紹介し、実際に活躍されている姿を見せることで市内外にアピールする方法もあると思われる。 ・ K P I については、郷土の森博物館のプラネタリウムが対象期間中改修工事をしていたことを要因としているが、今後の数値の推移を注視していく必要がある。 ・ 取組の趣旨は、「国内外からの観光客の誘致」であり、国外への P R ・ 発信に対する取組を実施し、今後も長く、多くの人々が府中市を訪れる事業として発展することを期待したい。 ・ K P I ~ のほか、イベントの参加者数やアプリの利用者数の把握に努めてもらいたい。
A	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、経済観光課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的な P R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1		
		平成27年度の実績	A	A		
休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	C	A		

大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334	300		
		平成27年度の実績	B	B		
東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
		17	100	66		
		平成27年度の実績	A	C		
東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
		104	17,190	8,465		
		平成27年度の実績	A	C		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>府中グリーンプラザ敷地活用方針を策定し、当該敷地を活用する事業者の決定に向け、募集要項等の作成・公表を行った。さらに、選定委員会を設置し、書類審査やプレゼンテーション審査などを踏まえ、当該敷地を活用する優先交渉権者を決定した。優先交渉権所と交渉を重ねた結果、選定事業者とすることとし、基本協定の締結を行った。また、ふれあい会館敷地については、サウンディング型市場調査の結果や庁内要望を踏まえ、引き続き活用方法の検討を行うこととした。</p> <p>市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、年末年始に中心市街地を訪れた方々へのおもてなしとして、竹を用いたライトアップ事業を実施した。竹あかりの製作に当たっては、市民の方々からもご協力をいただき、多くの方にとって思い入れの強い事業となった。にぎわいの創出に寄与した。また、長さやデザインの異なるオブジェを中心市街地内10か所に展示したことで、中心市街地内における回遊にも大きな効果があった。加えて、平成29年11月より、大國魂神社前にある未利用市有地の今後の活用方法を検証すべく、チャレンジショップを設置し、実証実験を行った。</p> <p>また、一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、一般社団法人まちづくり府中がコーディネーター役となり、府中駅南口に存在する大規模商業施設間の連絡会議が立ち上げられ、合同セール「キテキテ府中」や市内大学と連携した「FUCHU WORLD FESTIVAL」が催され、多くの来街者を迎え入れた。</p> <p>しかし、大規模商業施設の年間販売額に反映されるには至っておらず、上記取組の継続・発展が必要である。</p> <p>中心市街地の活性化に向け、一大集客施設である東京競馬場から本市中心市街地への回遊を創出すべく、タイアップ事業を一般社団法人まちづくり府中へ委託し、実施した。平成29年度は、スマートフォンを活用したスタンプラリー形式で実施したこともあり、スマートフォンをお持ちでない高齢者等が参加できず、課題が残った。</p>
B	

【平成30年度における取組など】

旧府中グリーンプラザについては、選定事業者との建物無償譲渡契約や事業用定期借地権設定契約など、各種契約が遅滞なく締結できるよう選定事業者との交渉を重ねていく。旧ふれあい会館については、市事業の代替地として活用することとし、事業協力者との土地売買契約締結に向け、交渉を重ねていく。

市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、竹を用いたおもてなしライトアップ事業を平成29年度に引き続き実施する。また、平成29年度まで、むさし府中商工会議所が実施していた「府中マルシェ」について、民間の自由な発想により、さらに発展を図るべく、一般社団法人まちづくり府中への委託により実施する。

一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、大規模商業施設の連絡会議に京王SCを新たに加え、さらなるエリアの魅力発信につなげる。また、市内では初となる「まちゼミ」の開催により、大規模商業施設とは異なる個店や店主の魅力を知らせていただくコミュニケーション事業を実施し、にぎわい性の強化につなげる。加えて、平成29年11月より設置している大國魂神社前市有地のチャレンジショップについて、10月末を目途に検証結果をまとめ、以降の中期的な活用に向けた準備を進める予定。

平成29年度についてはスマートフォンを持っていることが参加要件となっていたことから、参加者数が思うように伸びなかった反省を踏まえ、平成30年度は、昨年と同様のデジタルスタンプラリーに加え、東京競馬場来場者の市内店舗への誘導策を強化するため、アナログ施策を併用することで、気軽に当事業に参加できる仕組みとし、参加者数の増加を図る。

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・K P I 及び については、中心市街地の再開発が進むなど、取組が順調に進展しており、確実に活性化の成果は出ていると評価できる。</p> <p>しかし、K P I が約1万人も増加する一方で、K P I については、年々減少傾向にあり、現在の取組内容の継続・発展だけでは目標達成が厳しいように思われる。施設内の店舗の入れ替えや改装を行い、テコ入れしているのが見える部分もあるが、大規模店と連携し、K P I が下がっている理由を分析するなど、今後の取組に期待したい。</p> <p>・K P I 及び については、ともに大幅な減少であり、特にK P I については17,190組から8,465組にほぼ半減している。担当課はデジタル・アナログ方式の併用により数値の回復を図るとしているが、K P I 及び はデジタルアプリに対応出来ない人や店舗があったから減少したのか、アナログ施策を併用することで来店者や店舗の増加が期待できるのか、さらには、デジタルスタンプラリーについてどのように取り組んでいくのかなど、K P I が減少となった原因を分析したうえで、取組内容を検討してほしい。</p> <p>また、東京競馬場から中心市街地までの地理的な近さを東京競馬場の利用者に伝えるような一層の工夫を期待したい。さらに、スタンプラリー以外の方策も検討し、東京競馬場から中心市街地への人の流れをつくる必要があるのではないか。</p> <p>今後の成果によっては、本事業が中心市街地活性化に向けた取組としての的確なのかどうかを分析する必要がある。</p>
B	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

**具体的な施策・重要業績評価
指標（KPI）進捗状況評価票
【対象：平成30年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	①	市内企業の経営支援
主担当課	経済観光課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・むさし府中商工会議所と連携し、経営指導や金融支援などといった経営支援を行い、雇用の確保と地域経済の活性化を目指します。 ・商店街のより一層の活性化に向けた取組を支援します。 ・産・学・金・官の連携等を図り、新たな商品開発や人材交流につなげ、市内産業の振興を支援します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 融資実行件数	件	300					
		292	283	252	243	247	—
		/	B	C	C	C	
② 商店街イベント事業補助金交付商店会数	件	32					
		28	30	30	29	29	—
		/	A	A	A	A	
③ 技術相談を行った件数	件	470					
		463	456	407	462	536	—
		/	B	C	B	A	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①事業資金融資利子補助について、平成30年度における制度の見直しは行っていない。過去3年間の申込件数は、平成28年度が304件、平成29年度が285件、平成30年度が314件と増加に転じた。内訳としては、小口事業運転資金が3件の減、同設備資金が8件の減、不況対策特別資金が28件の増、小口零細事業運転資金が9件の減、同設備資金が15件の増、創業資金が6件の増となっている。</p>
B	<p>②イベント事業に対する補助を継続して行うことで、29商店会、延べ46事業分の商店街の活性化等に寄与する事業への支援を継続することができた。</p> <p>③府中市工業技術情報センターへ相談した会社1社当たりの相談件数は平均4件、また、技術相談の結果として製品開発につながった、あるいは開発途中の件数は5件ある。都の施設の充実等により、専門的な技術相談対応から、補助金等申請支援相談や技術情報提供等へ重点を移し支援することができた。また、産学連携によるマッチング支援として2社の交流あつ旋を行い、市内産業の振興を図った。</p>
【令和元年度における取組など】	
<p>①他市における同様の制度内容を鑑み、設備資金における自家用自動車として登録する車両を購入する場合に設定されていた上限期間（5年）を撤廃し、利便性の向上につなげる。</p> <p>市では、平成30年7月に生産性向上特別措置法に基づく「府中市導入促進基本計画」を策定し、国の同意を得ている。これにより、中小企業における「先端設備等導入計画」の策定が進んでおり、先端設備の導入に係る設備資金の申込の増加が期待される。</p> <p>②イベント事業に対する補助を継続して行うことで、商店街の活性化等に寄与する事業を行う商店会への支援を継続していく。</p> <p>③補助金等申請支援相談や技術情報提供に重点を置き、支援を継続していく。また、むさし府中商工会議所と連携し、市内商工業者の相談拠点の一元化により、新たな支援を開拓していく。</p> <p>前述した「先端設備等導入計画」の策定による「ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金」等の補助金等申請支援相談や技術情報提供に重点を置き、支援を継続していく。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①平成29年度からは4件の増加となり減少傾向からは反転したことが確認できる。しかし目標との数値差は大きく順調とは言い難い。申込件数が増加したことや新たな計画が策定されていることは地域経済の活性化に向けた好材料として捉えることができる。</p> <p>②目標には不足するものの、ほぼ横ばいの数値を維持しており順調に推移しているとみることができる。来年度以降にはなるが、市が補助金対象としている商店会が市内に48ある中で、補助金申請及び交付実績のある商店会が固定化されているのか、補助に向けた取組みの例等が付記されていると評価時の参考となることが考えられる。</p>
B	<p>③平成28年度から継続しての大幅増となり目標も達成することができた。前述の新たな計画策定による情報提供、支援による更なる進展にも期待が持てる。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	②	多様な人材の就労支援
主担当課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労意欲のある方が積極的に地域で活躍できるよう、若い世代の就業機会の拡大、働く意欲のある高齢者の就業機会の提供などを支援します。 ・ 講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援するとともに、市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組についての啓発を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① いきいきワーク府中の就職率	%	36.8					
		32.1	27.2	26.4	24.8	24.2	—
		/	C	C	C	C	
② 女性向け再就職支援の講座数	講座	現状値以上					
		5	5	5	4	3	—
		/	A	A	A	B	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①高年齢者の職業紹介事業は自所求人開拓を積極的に取り組み、就職者数 221 人、来所者数 2,086 人、自所開拓求人数 2,343 人と都内でもトップレベルの実績をあげている。定年の引上げ等により高年齢者の就労機会がさらに厳しさを増している状況の中、懇切丁寧な対応を行い再就職につなげた結果、就職者数は年間 220 人前後を堅持している。求職登録者数は増え続けており、評価指標として就職率は低下する結果となった。市とセブーンイレブンの地域活性化包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」の開催、多摩地域にあるアクティブシニア就業支援センターと連携した就職面接会の開催、並びにハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センターとの共催による就職支援セミナーや合同就職面接会の開催により、高年齢者の就労相談や就労機会を提供した。</p>
B	<p>②商工会議所、東京しごとセンター、東京しごとセンター多摩と連携し、再就職支援講座を 3 講座（延 18 回）実施し、出産や介護等の理由により離職した女性の再就職を支援した。なお、受講者 132 人のうち、就職につながった人数は 14 人であり、昨年度が受講者 113 人のうち就職につながった人数が 24 人であることから、就職率を高めていく必要がある。</p>
【令和元年度における取組など】	
<p>①ハローワークの求人情報に加えて、勤労者福祉振興公社が独自に集めた求人情報を提供して実施する概ね 55 歳からの無料職業紹介事業「いきいきワーク府中」に対して引き続き支援していく。求人数及び就職者のニーズに対応するため、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センター等と連携を図り、再就職支援講座や就職面接会を行い、高年齢者の再就職を支援していく。</p> <p>②引き続き、東京しごとセンター、東京しごとセンター多摩と連携した講座を開催するほか、主催講座を開催するなど、出産・育児・介護などの理由により離職した女性の再就職を支援していく。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①の実績については、目標値36.8%に対して、平成30年度は▲12.6ポイントであり、評価の面では厳しい状況である。また、平成27年以降、達成率が毎年低下しており、今後の対策の必要性が求められる状況である。担当課の分析によると、就職数は横ばいで推移しており、原因は利用者数の増加にあるとのことであるが、求人開拓数が増えている状況の中、就職率が減少しているのは、求人と求める職種とのミスマッチが発生している状況が考えられ、利用者が求める職種の開拓に力を入れるなどの対策とハローワーク等との連携強化による就職率の向上が求められる。</p> <p>②女性向け再就職支援の講座については、昨年度は4講座で延べ20回開催しているが、今年度は3講座延べ18回の開催にとどまっている。但し、受講人数については昨年度が113名のところ、今年度は132名となり、事業としては概ね順調に推移していると認められる。今後、さらに利用者のニーズに合った講座となるよう、また、就職に結びつく内容となるような講座の運営として欲しい。</p>
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成 30 年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	2	起業・創業の推進による産業構造の多様化
具体的な施策	①	起業・創業の支援
主担当課	経済観光課、協働推進課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業・創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、相談体制を確保するとともに、セミナーなどにより、起業・創業希望者を支援します。 ・ 東京農工大学をはじめとする教育機関や市内団体等と連携し、コミュニティビジネスの立ち上げや、インキュベーションオフィスの活用も含め、商・工・農における起業や創業に関する多様な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 起業・創業に関するセミナー参加人数	人	90					
		44	115	80	62	72	—
		/	A	B	B	B	
② コミュニティビジネスに関するガイダンス・個別相談の参加人数	人	24					
		6	24	10	28	80	—
		/	A	B	A	A	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	①創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、創業支援事業計画に基づく創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保することができた。また、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾については11回、延72人の参加があり、創業希望者の継続的な支援を行うことができた。なお、KPI①の参加人数については、年度ごとに増減があるものの、セミナーに参加された方のうち、実際に創業した人数はH27が8名、H28が6名、H29が13名、H30が23名と、概ね増加傾向にある。
B	②平成30年度より、コミュニティビジネス入門講座（ガイダンス）を市民活動センターの指定管理者が行い、各回でテーマを設ける、チラシを配架するなどの工夫により参加者数増加につながった。また、相談者のうち少なくとも1人がコミュニティビジネスの立ち上げにつながった。
【令和元年度における取組など】	
①創業に関する基礎知識や事例、各種補助・制度の情報などについて、創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保していく。また、創業支援プロジェクト機関における創業に関するセミナー及び創業塾の開催を継続し、創業希望者の支援や創業希望者どうしの交流の場をつくっていく。	
②入門講座（ガイダンス）の内容を改良し、事業計画書作成ワークショップなど起業・創業につながる実践的な学びとなるよう工夫する。また、起業・創業に関連する各種組織との連携を検討し、コミュニティビジネス立ち上げ支援の質の向上を図る。	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	①起業・創業に関するセミナー人数はH29年度の62名に比べ72名と増えており、創業希望者の実態に合わせ参加しやすい日時や回数を設定するなど、さらなる目標達成に向けた取組を期待したい。 なお、KPIの評価はBが続いているが、実際に起業した人数が増加傾向にあることは評価できる。
B	②目標を上回る実績になっているため、その取組の成果が出ていることは評価できる。実際のコミュニティビジネスの立ち上げにつながるよう、創業支援プロジェクト機関と連携するなど、さらなる創業者の増加を期待したい。

※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成 30 年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	①	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	経済観光課、広報課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 市民や市内の事業者、企業、学校等と連携を図り、市の魅力を発信して、来訪者の増加を図ります。また、市民に対しては、市の魅力を再認識してもらい、住み続けたいと思う市民を増やします。 府中市の魅力を再発見を行政だけでなく、市民、各種団体等と協働で取り組み、「武蔵国 府中大使」や様々な機会・媒体を通じて発信し、にぎわいの増進を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 京王線府中駅における 1 日の乗降人員	人	現状値以上					
		85,279	86,949	88,100	90,224	90,316	—
		/	A	A	A	A	
② 市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合	%	15.0 以下					
		17.7	17.3	17.4	17.0	16.6	—
		/	B	B	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①漫画「ちはやふる」とのコラボイベントとしてキーワードラリーを実施した。武蔵国府中大使を活用した観光PR冊子「府中に夢中」をリニューアルした。また、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、外国人観光客をターゲットとした、海外向けPR動画作成と成田国際空港デジタルサイネージへの掲出、インフルエンサー招致、英語版フェイスブックの開設や訪日リピーター数の多い台湾・香港向け観光情報サイトへの記事掲出など、インバウンド向け情報発信事業を実施した。</p> <p>②広報紙を予定どおり発行し、拠点配布として、ファミリーマート（サークルK・サンクス）、セブンイレブン、東京外国語大学、東京農工大学などで配布したほか、行政情報アプリ「マチイロ」に掲載した。ホームページを適正に管理・運用した。メール配信サービス、市・ふちゅこまのツイッターを積極的に活用した。テレビ広報を予定どおり製作・放映した。</p>
B	
【令和元年度における取組など】	
	<p>①引き続き、国際的な大会により増加が見込まれる外国人観光客に対する、おもてなし体制の強化を図る。ラグビーワールドカップ期間中などに、府中駅に英語での対応が可能な臨時観光インフォメーションセンターを設置するほか、東京スタジアムの試合開催日に、多磨駅で外国人を含む観光客に本市をPRするおもてなしブースを展開する。期間中、けやき並木通りでイベントを実施する日などに、ラグビーチケットホルダー向けに記念切符を配布し、本市中心部への誘客を図る。また、例年実施している京王線・南武線・国分寺市との連携事業等も引き続き実施していく。</p> <p>②広報紙・テープ広報の年36回発行、ホームページの適正な管理・運用、メール配信サービス及びツイッターの管理・運用、テレビ広報を年36本製作・放映、市マスコットキャラクターの管理・運用、わたしの便利帳を作成・全戸配布を行う。</p> <p>特集記事を掲載するスペースを確保できるよう、掲載内容を精査し、記事の記載方法を変更する。広報紙にホームページのQRコードを掲載し、広報紙とホームページを連動して活用する。</p>

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>① 過去3年毎年千人前後増加してきた府中駅の1日の乗降人員は、30年度は約百人の増加にとどまったものの目標はクリアしている。</p> <p>施策面では、市のホームページは周辺の他市のものと比べるとまだ硬い印象があるが、トップに国内向けには棟方志功展の紹介や、海外向けPR動画へのリンクが設定され、英語の機械翻訳もレベルアップしている、などインバウンド向け情報発信が強化されている。</p> <p>観光協会のホームページについては機械翻訳のレベルアップか、機械翻訳の限界を踏まえた日本語原文の調整が必要と考える（例、ミニツアーが「minitsua-」と訳されているのを、原文にミニツアー（短いガイド）と注をつけるなど）。</p>
B	<p>② 市政情報の入手しやすさの数値については徐々に改善しているが、改善ペースは不十分である。目標達成には今年度に計画されている「わたしの便利帳」の全戸配布、など相当の対策強化が必要である。</p> <p>アンケート全体の数値もさりながら、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で市の将来像を考えると30代、子育て世代に焦点を絞ったアンケート結果の分析とそれに基づく対策（情報発信を含む）も重要と考えられる。</p> <p>■協議会評価としては①、②併せてBとする。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	経済観光課、政策課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中駅周辺のエリアマネジメントを推進し、にぎわいを創出することで、中心市街地の活性化を図ります。 ・ラグビーワールドカップ日本大会及び東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、日本全国に、そして海外に府中市の魅力を発信するとともに、地域が一体となって国内及び海外からの訪問者の受入環境の充実・強化を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 休日のけやき並木通りの歩行者交通量	人	現状値以上					
		19,378	19,378	15,586	25,500	26,232	—
		※平成27年度の実績	—	C	A	A	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>○平成30年度より、府中駅南口にある大規模商業施設の合同セール「キテキテ府中」に、「ぶらりと京王府中」も参画し、地域におけるさらなる連携が図られるとともに、本イベントの認知度も高まっている。また、平成30年度に初めて実施した「むさし府中まちゼミ」も参加者より大変好評であった。</p> <p>○市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業として、東京競馬場来場者を中心市街地に呼び込むためのタイアップ事業や中心市街地への来訪者をもてなすための竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェなどを実施し、にぎわいの創出に寄与した。</p> <p>○さらに、ラグビーワールドカップ2019開催に向けた気運の醸成を図るべく、「カウントダウンモニュメント」を設置し、お披露目を兼ねたイベントを催した。同日には、「武蔵府中ワンハンドフードレシピコンテスト」と題して、ラグビーワールドカップ2019や、東京2020オリンピック・パラリンピックといった大規模イベントの開催に向け、片手で持つことができ、街歩きやイベント会場などでも食べやすい、本市ならではの「ワンハンドフード」のレシピの選定に係る試食会及び表彰式を執り行ったほか、2つの地元商店会が連携したイベントも開催され、大きなにぎわいを見せた。</p> <p>○平成30年度からの取組として、外国人観光客おもてなし職員がSNSを使って積極的に外国人向け情報発信を行った。また、国内向けには、ラグビーワールドカップ2019や、東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成のための盛り上げイベントやキャンプ地情報等について、SNS、広報、ホームページまたはチラシなどを活用して情報発信を行い、市の魅力発信に努めた。</p> <p><KPI①の調査条件について></p> <p>○測定日時：平成30年10月14日（日）7時から19時（合計12時間）</p> <p>○場所：けやき並木通り（ル・シーニュ前） 天候：くもり</p>
A	
【令和元年度における取組など】	
	<p>○一般社団法人まちづくり府中がコーディネートする大規模商業施設間の連絡会議は継続して実施するものとし、本年9月末をもって伊勢丹府中店が閉店することによる影響を最小限にとどめられるよう、これまで以上に関係団体との連携を深めていく。</p> <p>○また、本年9月20日より、ラグビーワールドカップ2019が開催されることを受け、本市をキャンプ地とするイングランド及びフランスにちなんだイベントの実施や、昨年度末に選定された「武蔵府中ワンハンドフードレシピ」の認知度向上や個店等への広がりを目指し、市の魅力向上や発信に努め、にぎわいの創出を図る。</p>

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>中心市街地の賑わい創出に向けた各種取組や2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた府中市の魅力発信事業が推進されたことは評価できる。また、KPIの指標も29年度同様高い数値を維持したことは評価できる。</p> <p>なお、本年9月末をもって府中駅周辺の核となる店舗であった伊勢丹府中店が撤退することであるが、その影響を少なくするための関係団体や地域が連携した取組みを実施してほしい。また、いよいよ本年はラグビーワールドカップの、来年はオリンピック・パラリンピックの開催年であることから、これらの好機を活用し、中心市街地の活性化やにぎわいの創出に寄与するような取組みを期待したい。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成		
基本的方向	2	郷土への愛着を感じるふるさと意識の醸成		
具体的な施策	①	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実		
主担当課	文化生涯学習課、スポーツ振興課		関連課	ふるさと文化財課、美術館
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の伝統芸能や芸術文化を継承していくとともに、文化施設や歴史・文化遺産を活用して、郷土愛を持てるまちを目指します。 ・スポーツタウン府中の発展に向け、各種競技団体、市内の大学や市内を活動拠点とするトップチームなどとの連携を深め、府中市ならではの事業を展開します。 			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 郷土の森博物館及び美術館の入場者数	人	533,000					
		489,602	498,579	569,685	530,738	419,188	—
		/	A	A	A	B	
② 大学やトップチームと連携する事業数	事業	3					
		2	2	3	4	5	—
		/	A	A	A	A	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>① 郷土の森博物館では、天候不良による影響などにより、年間の利用者数は前年度を超えることができなかったが、リニューアルオープンしたプラネタリウムを活用するとともに、特別展・企画展・あじさいまつり・梅まつりの他、講座、体験学習・調査研究事業等の博物館事業が多彩に着実に行われ、市民の知的レクリエーションの場としてふさわしい事業の展開に努めた。</p> <p>美術館では、企画展・公開制作・鑑賞教室等を実施するとともに、市民ギャラリーでは、市内で活動する個人・団体の展示を実施した。</p> <p>天井改修工事の影響で平成30年9月3日から平成31年3月15日まで休館したが、来館者数は、144,526人を数えた。</p> <p>長期休館に伴う開館日数減少(252日→128日)の影響で来館者数が、前年度(246,972人)を下回ったが、1日当たりの平均入場者数では、前年度を上回っていることから、一定の評価ができる。</p> <p>市史編さん事業では、東京外国語大学と連携して近世古文書の調査と近代行政文書の調査を進めた。また東京農工大学と連携し、自然専門分野の調査を実施した。6分野からなる専門部会の活動による資料収集、調査、研究を進め、市史編さんの成果をまとめた刊行物として、研究紀要1冊と資料編3冊を発行した。</p> <p>市指定の無形民俗文化財である府中囃子の演奏技術の伝承に年間を通して支援した。武蔵国府太鼓は、市民を対象とした講習会を継続して実施するとともに、武蔵国府太鼓の演奏を収録したDVDを作成し、伝統芸能の普及に努めた。</p> <p>② 総合体育館では、本市ならではの事業として、トップチームよるフットサル教室及びチアダンス教室等を実施し、参加者からこれを機会に競技を始めたいとの多数の声がかかり好評を得た。また、トップチームと連携したボールふれあいフェスタ、トップチームや市内の大学と連携したみんなのスポーツdayを本市ならではの事業として展開し、スポーツタウン府中の発展に寄与した。</p>
A	

【令和元年度における取組など】

① 郷土の森博物館では、リニューアル1周年を迎えるプラネタリウムの投映内容をさらに充実させ、展示会では、令和改元にちなんだ「中世東国と改元」展、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うミニ展「1964 オリンピックと府中」などを実施する。また、「あじさいまつり」と「梅まつり」については、植栽を充実させ市制施行65周年記念として開催し、利用者の増加を図る。

美術館では、企画展、常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高めるとともに、開館20周年を迎える2020年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催されることから、多くの外国人観光客の入場が見込める。そのため、トイレの洋式化やバリアフリーの向上に努め、利用者の利便性の向上を図る。

市史編さん事業では、東京外国語大学、東京農工大学などの大学と連携して調査研究を実施するとともに、専門部会所属の専門家や研究者と連携して資料収集、調査、研究を継続して進める。また市史編さんの成果をまとめた刊行物として、研究紀要、資料編、付属刊行物などを発行し、その配布と頒布を行う。

ラグビーワールドカップ2019開催時、本市を来訪する外国人を伝統文化でおもてなしをするため、府中囃子、武蔵国府太鼓演奏披露と芸術文化協会加盟団体による日本文化の紹介及び体験を行う。また、府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成に継続して取組む。

② K P I ②「大学やトップチームと連携する事業数」では平成30年度においても前年度以上の数値を達成できた。今後は事業を継続するとともに、参加者満足度の向上のため事業内容を工夫することにより、更なる充実を目指していく。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①美術館が約半年閉館していた影響が大きく、入場者数は目標値に達することができなかった。しかし、美術館の開館時における1日あたりの平均入場者数では、過去5年間の中で最も多いことから評価できる。今後も様々な企画・展示に期待したい。</p> <p>一方、郷土の森博物館の入場者数は、昨年度と比較し9,104人減少した。今後、リニューアルしたプラネタリウムのより一層のアピールや、活用、そして様々な展示や企画に期待したい。</p> <p>また、市史編さん事業や、伝統芸能の普及支援についても評価できる。今後も継続した取り組みに期待したい。2019年は「ラグビーワールドカップ2019」、2020年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されることから、これらに向けた取り組みにも期待したい。</p> <p>②大学やトップチームと連携する事業数において、目標値を達成し、また、前年度と比較しても増加している点で評価できる。今後も事業の継続と、新たな事業の展開に期待したい。また、参加者満足度の向上のために、参加者のニーズの把握にも努めてほしい。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	①	安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実
主担当課	子育て応援課、子ども家庭支援課	
施策概要	・妊娠期からの子育て不安の解消に向けて、適切な情報提供を行うとともに、各種健診や教室などを実施します。また、出産前後の家庭の育児や家事を支援し、出産に係る母親の負担感の軽減を図ります。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① Fu-CHU こそだてサイト「ふわっと」アクセス数	人	現状値以上					
		24,807	26,924	23,887	50,146	59,276	—
			A	B	A	A	
② 産前産後家庭サポート事業の新規登録世帯	世帯	現状値以上					
		213	224	220	213	269	—
			A	A	A	A	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①子育てサイト及びアプリの適切な運用を図った。また、子育てサイトに多言語翻訳機能を搭載し、外国人を含め幅広く出産や子育ての支援に関する情報提供を行い、育児に係る不安解消等を図った。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業のリーフレットを改訂して母子健康手帳交付時に配布したことにより利用者が増加し、より多くの育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安解消等を図った。</p>
A	<p>※全妊婦を対象に、妊婦健康診査、超音波検査、HIV抗体検査、子宮頸がん健診の費用助成（対象者1,927人、延べ23,281件）をした。母親学級を年11回、両親学級を年11回実施し、延べ796人の参加があった。離乳食教室、年51回（参加者延べ1,376人）、親子の歯みがき教室年12回（参加者延べ221人）を実施した。必要時、妊娠届、健診、教室から助産師及び保健師の相談や訪問につなげた。また、子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠届出時に全妊婦に看護職等による面談を実施し、母子の保持増進及び安心して子供を産み育てるための環境づくりを充実させた。</p>
【令和元年度における取組など】	
	<p>①市民がより情報を得やすくなるよう、子育てサイト及びアプリの適切な運用を行うとともに、リーフレットの配布を行うほか、メール配信サービス等様々な媒体によりさらなる情報提供に努める。</p> <p>②引き続き、産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児不安の解消を図る。</p> <p>※引き続き、子育て世代包括支援センターとして、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を充実させていく。</p>

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>① 子育てサイト及びアプリが充実し、子育てサイトの多言語翻訳機能が整備されたことにより、外国人を含め幅広い情報提供の増加に結びついたことは評価できる。さらに、より多くの育児不安を抱える保護者をきめ細やかな支援につなげるためには、多くの情報から適切な支援を選択してくれる総合的なウェブサービスを設置し、育児に係る不安を速やかに解消する機能をつくっていく事が必要ではないか。</p> <p>② 産前産後家庭サポート事業は、リーフレットを改訂し、配布が増え、利用者が増加したことで、身近に子育てや不安を孤立させない支援が進められ、利用者の増加がみられたことは評価できる。一方、利用者が増加することにより、今までの2事業者だけでは、対応できなくなっていると聞いた。受け入れる事業所を増やし、安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実と、子育て世代包括支援センター機能の更なるワンストップ化を求めたい。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:平成30年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	②	安心して子育てができる環境の整備
主担当課	子育て応援課、保育支援課、子ども家庭支援課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期に乳幼児の各種健診や訪問を行い、発育と発達の状況把握や疾病の早期発見に努めることにより、医療などと連携したきめ細かい保健指導を行います。また、各種予防接種を実施し、子どもの健康を守ります。 待機児童の解消に向け、既存施設の有効活用などのソフト面の手法と施設の整備などによるハード面の手法を併用することにより、保育サービス量の拡充に取り組むとともに、保育の質の向上を目指します。また、地域の様々な人材や団体、施設などの社会資源との連携や協働を図り、地域全体で子ども・子育てを支える環境づくりを進めます。 子ども医療費助成など、経済的な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 新生児訪問実施率	%	97.0					
		86.9	86.1	80.7	88.8	82.3	—
			B	C	B	C	
② 特定教育・保育施設の数	箇所	54					
		47	50	52	54	57	—
			A	A	A	A	
③ 安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合	%	50					
		48.5	50.3	49.6	49.7	50.3	—
			A	B	B	A	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①新生児訪問では発育状況の確認や子育て相談や情報提供を行い、母子の健康増進と子育て不安の解消に寄与した。新生児訪問を希望する方全員に訪問を実施することができた。</p> <p>また、里帰り先で訪問を希望する家庭には里帰り先の自治体に訪問依頼をし対応した。（都外医療機関（助産院含む）妊婦健診者数平成29年度357件、平成30年度334件）。新生児訪問を未利用の家庭には、3～4か月児健診等で状況確認を行った。乳児（3、4か月児）健康診査1,988人（98.8%）○1歳6か月児健康診査2,149人（受診率98.1%）○3歳児健康診査2,255人（受診率96.7%）定期予防接種では里帰り先で接種した費用の償還払いを実施し、接種の機会を拡大した。予防接種ナビちっくんの登録者数は平成30年度末10,160人と増加し平均予防接種率は96.5%で健診とともに高水準を維持し子供の健康維持の役割を果たした。</p> <p>②認可保育所（私立保育園）の整備事業候補者を公募し、選定した事業者候補に対する施設整備に対して開設準備支援を実施し、平成31年4月1日付けで認可保育所を3施設開設したほか、私立幼稚園において新たに2園の幼稚園型一時預かり事業を開始するなど、多様な保育サービスの充実を図った。</p> <p>また、市内保育施設に対して、市職員による巡回支援や保育従事者を対象とした研修などを実施し、保育の質の向上を図った。</p> <p>③子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図るため、市内13ヶ所で子育てひろば事業を実施したほか、市保育士やボランティアによる子育てひろばや市民団体の子育てひろば活動への補助を行った。義務教育終了前までの児童を対象に医療費の助成や児童手当の支給を行い、子育て家庭の経済的負担の軽減を図った。</p>
A	
【令和元年度における取組など】	
	<p>①平成30年4月から子育て世代包括支援センターの開設に伴い開始した、妊娠届出時の看護職による全件面接においては職員のスキルアップを図り、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援及び、必要に応じて保健師の継続相談等につなぎ早期から支援できる体制をさらに充実していく。また、産後の母の心身のサポートを充実させるため、産後ケア事業を開始する。引き続き各種サービスの実施率の向上に努める。また、健康診査では子どもの健康増進と共に子育て支援の機会になるよう実施する。予防接種は安全に実施されるよう予防接種ナビは継続実施し、市民及び協力医療機関への情報提供等に努めていく。</p> <p>②引き続き、待機児童解消に向けた認可保育所等の保育施設の整備を行うほか、私立幼稚園などの協力を得ながら一時保育・定期利用保育などの保育サービスの充実を図るとともに、保育コンシェルジュによる相談窓口業務を通じて、各子育て世帯に応じた保育サービスの提案を行う。</p> <p>③地域で子育てひろばを展開するとともに、市立保育所の地域子育て支援拠点の整備を進める。また、手当・医療費助成とともに継続して法令等に基づき実施をすることにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。</p>

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>① の新生児訪問実施率は KPI を下回っているが、背景としては里帰り出産が多いことが考えられる。3～4 か月児検診の受診率が 98.8%であり、新生児訪問の未利用の家庭の確認は行っているとのことなので、新生児の状況確認に大きな問題があるとは言えず、進捗状況としては概ね良好であると判断できる。</p> <p>② 府中市は依然、待機児童数では全国的にみて多い自治体であるが、教育・保育施設が着実に整備されて数を増やしている。保育従事者への研修の実施等、保育の質の向上も継続して取り組むことが期待される。</p>
A	<p>③ 安心して出産、子育てができると感じている市民の割合は、目標値を若干上回ることができている。子育てに優しい街という意識が市民に広く定着するよう、子育て支援事業や子育て家庭への経済的支援の充実について、市民への広報をより一層行うことに努めて欲しい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:平成 30 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策	①	防災・防犯体制の強化
主担当課	防災危機管理課、地域安全対策課	
施策概要	・全ての市民が安心して暮らし続けられるよう、地域の防災・防犯体制を強化するとともに、災害に強い都市基盤づくりを進めます。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 日頃から家庭で災害に対する備えをしている市民の割合	%	80.0					
		62.2	57.4	62	55.8	66.8	—
			B	B	C	B	
② 地域安全リーダー講習会受講者数	人	450					
		311	332	354	374	387	—
			A	A	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①地域の防災訓練や自治会等で実施する出前講座において、市民による自助の必要性や、各家庭で取り組むことのできる防災対策について説明した。また、防災用品販売業者との協定に基づき、防災用品あっせんに関するチラシを市民向けに配布し、備蓄品の備蓄や家具転倒防止用品の活用等について意識啓発を行った。さらに、文化センター圏域ごとの自主防災連絡会において自主防災の取り組みについて啓発している。</p>
B	<p>②防犯体制の強化について</p> <p>地域安全リーダー講習会はあらゆる機会を通じて広く呼びかけを行った他、東京都からも講師を招く等内容に変化を加えた結果、申し込み時点では女性を含め昨年を上回る受講希望者がいたものの、講習日が他の市行事と重なったこともあり実参加者は13名と昨年を下回った。しかし、参加者の層は市内企業関係者や学校見守りボランティア関係者、市内福祉施設勤務者等幅を広げ、これまでにいなかった若い層(40歳代1名)の参加も得ることができた。</p> <p>また、寸劇防犯講話については年度1回バルトホールを使用して実施し、約300名の参加者に特殊詐欺の最新情報を交えた寸劇を実施し好評を得た。</p>
【令和元年度における取組など】	
	<p>①これまでの取り組みを引き続き推進するとともに、防災訓練や出前講座に、より多くの方に参加していただき、自助について、周知をしていく。</p> <p>②これまでに締結してきた「ながら見守り連携協定」を活かすため、提携企業へ見守り希望箇所等の情報をタイムリーに提供していくとともに、リーダー講習会への社員等の参加を呼び掛けることでポイントを押さえた質の高い見守りが可能となる体制を築いていく。</p>

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>① 現状数値を初めて超え、昨年度より 10%増加した。 各地で起こる自然災害を目にする機会も多く、防災に対する意識も高まってきている事が数値にも表れているのではないかと。</p> <p>市民の意識を高める為、更なる啓発活動が必要と思われる。 また、文化センター圏域ごとの自主防災活動は地域活動には大切な事だが、近隣との交流の無い世帯（単身世帯）等の取りこぼしがないようにしていただきたい。</p>
B	<p>② 参加者数は低かったが、受講参加希望者の発掘、周知等の努力をされている事は評価したい。見守りに対しての取組みは継続し、今年度の提携企業との情報提供からの講習会参加を促していただきたい。</p> <p>目標に関して現状では達成は難しい。今まで実施をしていない取組み（実施回の追加等）を増やしたりして、講習会の受講者を増やしていただきたい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成 30 年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策	②	公共施設・インフラの計画的な管理及び運営
主担当課	建築施設課、管理課、公園緑地課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメントの取組として、公共施設の最適化と計画的保全に努め、市民が将来にわたり良好な環境で施設を利用できるよう努めます。 ・老朽化が進むインフラ（道路・公園等）を長期にわたり安全に管理していくため、インフラマネジメント計画に基づき、推進します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 公共施設の市民 1 人当たりの 延床面積	㎡/人	現状維持					
		2.52	2.49	2.48	2.60	2.53	—
		/	A	A	B	B	
② 公園や都市緑化で 緑あふれるまちと しての市民満足度	%	74.0					
		70.3	70.0	70.6	71.1	68.3	—
		/	B	B	B	C	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに基づき、各施設において、最適化と計画的保全の取組を着実に実施し、順調に進捗している。当該プランにおいて、市民保養所「やちほ」と八ヶ岳府中山荘、生涯学習センターの宿泊施設を対象とするモデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」については、有識者や公募市民等で構成する検討協議会にて検討を行い、検討結果をまとめた報告書を受理した。また、保育所と学童クラブ、子育て支援センター「たち」を対象とするモデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」については、令和元年度からの試行的な実施に向けて、関係課等と協議・調整を行った。</p> <p>②社会情勢の変化などから見直した、府中市インフラマネジメント計画（2018年度）の取組として、日常の維持管理業務などを民間事業者へ委託する道路等包括管理事業（北西地区）の試行、インフラマネジメントを市民に周知するためのシンポジウムの開催、ペDESTリアンデッキの点検、50か所の公園調査に基づく府中市公園施設長寿命化計画の策定、府中市緑の基本計画2009の改定に向けた協議会等での検討などを行った。また、安全性の確保、樹木の健全な育成、良好な環境と景観の形成などを考慮し、街路樹の定期的なせん定、間引きや公園等の樹木のせん定、間引き、枯損木の伐採など、適切な維持管理に努めた。</p>
B	
【令和元年度における取組など】	
	<p>①モデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」については、協議会から受理した報告書を踏まえて、関係課や関係団体と調整を行い、基本方針を策定する。また、モデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」については、試行的な実施を行い、その効果の検証を行う。</p> <p>②府中市街路樹の管理方針に基づき、街路樹の適切な維持管理に努めるとともに、府中市インフラマネジメント計画（2018年度）の取組として、道路等包括管理事業（北西地区）の評価準備及び見直し検討、ペDESTリアンデッキの長寿命化修繕計画の策定、府中市公園施設長寿命化計画に基づく更新工事の進行管理を行う。また、今年度中に府中市緑の基本計画2009の改定を行うとともに、既存の緑の保全や質の高い空間づくりを進めるため、樹木などの適切な管理を行い、周辺環境や特徴を踏まえた緑化を推進する。</p>

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>KPI①公共施設の市民1人当たりの延床面積については、2.53 m²/人と現状を維持しており、目標達成に向け概ね進捗していると評価できる。</p> <p>平成30年度を取組を見ると、第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに定める「宿泊機能・サービスの今後の在り方」についての検討協議会を設置し検討が進んでいること、および他の公共施設を対象とする次年度に向けた関係各所との調整に着手していることから、公共施設の最適化と計画的保全の取組は進展しており、進捗状況は概ね良好であると評価される。</p> <p>また、インフラマネジメント計画に基づき、市民向けシンポジウムの開催のほか、維持管理のための施策を行っている。しかしながら、KPI②公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度は、68.3%と前年度比低下し目標値との乖離が大きくなったことから、現状の施策を通して目標を達成することが難しいと考えられる。</p> <p>以上から、取組は着実に実施しているものの、満足度の向上には課題があり、施策の工夫等に努めることが期待される。</p>
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化
具体的な施策	①	地域交流・活動の促進
主担当課	地域コミュニティ課、協働推進課、指導室	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会的な孤立を防ぐとともに、子どもや学生が地域づくりに関わる機会を持てるよう、幅広い世代の交流を促進し、地域社会を支える共同体の機能を深めます。 ・相互友好協定を結んでいる東京外国語大学及び、東京農工大学及び明治大学をはじめ、市内の企業や市民活動団体等と連携することで、地域課題を市と市民が協働して解決する体制の整備を目指します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 各文化センター圏域でのコミュニティ事業参加者数	人	231,000					
		222,427	228,575	238,754	236,873	228,588	—
		/	A	A	A	A	
② 市と大学や企業等が協働実施している事業数	事業	現状値以上					
		59	56	41	43	54	—
		/	B	C	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>① 地域の特色を活かした各種行事を地域の人々が参加しやすい工夫を凝らしながら市民との協働で提供し実施することができた。圏域ごとの課題への対応については、他センターの成功事例を参考にし、改善を試みている。</p> <p>事業参加者数の減少は、台風接近により押立文化センターの地域まつりが中止となったことによる。</p>
B	<p>② 市内の大学や過去からの協働実施している大学との連携については、継続実施により定着をしており、良き協働のパートナーとして機能している。</p> <p>③ コミュニティ・スクール事業では、学校と地域とが連携して、各校で地域防災の推進や学習支援の実施、ゲストティーチャーの紹介、サマースクールの開催などの活動が主体的に実施されている。</p>
【令和元年度における取組など】	
<p>① 地域の特色を活かした事業の展開にし、圏域住民のニーズを勘案した事業の実施に取り組んでいく。事業無参加層の働きかけを試み参加者数の増加に努めていきたい。</p> <p>② 大学に比べ、企業との連携については難しい状況があるが、事業内容の更なる充実のため、新規開拓を含め引き続き実施していきたい。</p> <p>③ コミュニティ・スクール事業については、引き続き、地域の教育力を生かして推進していきたい。また、各校の取組の情報共有を図っていく。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①については、市民との協働により地域の特色を活かした各種行事を開催している点は高く評価できる。しかし、事業参加者数の経年的推移をみると、減少要因（台風の影響により押立文化センターの地域祭りが中止）が特定されているとはいえ、目標値（231,000人）を超えていたH28年度（238,754人）と比較すると、H30年度は約1万人の減少となっている。こうした状況は、別の事業参加者数の頭打ちなども減少要因として考えられる。文化センター圏域ごとの課題抽出とその改善を試みているとのことであるが、事業参加者数減少の歯止めになっているかの検証が必要である。</p> <p>②については、昨年度から11事業が増加して54事業となったことで、目標値である「59以上」に近づいている点は高く評価できる。しかし、企業との連携は相対的に少ない傾向が続いており、連携増加に努めて欲しい。また、多様な主体（企業、各種団体、大学）との横断的連携を積極的に図り各主体の強みを活かすことで、新規性・独自性のある事業創出を引き続き期待する。</p>
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保		
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化		
具体的な施策	②	空き家などの活用		
主担当課	環境政策課	関連課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	・空き家や空き店舗などは、地域活動に活用できる重要なストックであることから、これらを有効活用し、地域コミュニティ拠点の整備などを目指します。			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 空き家等を活用した コミュニティ活動 事例	人	実施					
		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	—
		/	C	C	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、空き家を予防する観点から適正管理の重要性と、空き家になったことに伴う、近隣への影響を多くの市民の方に理解してもらうために、空き家に関するセミナーを延べ5回（うち1回は、調布市、府中市、狛江市の3市連携）開催した。また、同じく空き家対策実施の必要性を啓発するため、DVDを使った勉強会を3回開催し、セミナーと勉強会を合わせて延べ約200名（うち、120名は府中市民）の方の参加があった。 ・さらに、空き家等の有効活用を促して地域コミュニティの活性化に向けた取組みを進めるためにも、セミナー終了後に売却、賃貸、除却等の利活用も含めた無料相談会を延べ4回実施し、20組以上の空き家の所有者の参加があった。
B	
【令和元年度における取組など】	
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利活用について、府中市空き家等対策計画に則り、空き家対策は所有者等による自己管理にあるという原則との整合を図りながら進めていく。 ・前年度に引き続き、空き家に関するセミナーや相談会の実施を継続することで、より多くの市民の方に、空き家に関する理解を深めていただき、利活用等につなげていく。 	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>・平成30年度は、空き家に関するセミナー、DVDを使った勉強会などを開催し、延べ約200名の参加があり、セミナー終了後の無料相談会では、20組以上の空き家の所有者が参加し、空き家の活用に関する知識の習得につなげたことにより、更なる空き家対策等推進及び啓発、活用が進められることを期待したい。</p>
B	<p>・さらに、空き家を活用したい方々向けのセミナー開催を継続し、目標達成に向けて、空き家等を活用したコミュニティ活動の具体的な施策が進められることを期待したい。</p> <p>※平成30年12月に“World Habitat Awards”「最優秀賞」を受賞したNPO 法人「リトルワonz」(東京)の取組を紹介する。</p> <p>リトルワonzは2012年より母子家庭を対象にした居住支援を実施し、住宅を提供するだけでなく、生活の支援を同時に行い、母親と子供の生活に貢献している。また、社会問題である空き家も活用し、リノベーションして、住めるような住宅にしたり、物件所有者にも活用を提案している。東京都をはじめとした行政機関、不動産専門企業、地域団体とも連携しながら、母子家庭に住まいを提供し、6年間で300世帯以上を支援した。</p> <p>(リトルワonz ホームページ、2019年1月22日朝日新聞記事より引用 https://ameblo.jp/littleones/entry-12425763756.html)</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

**具体的な施策・重要業績評価
指標（KPI）進捗状況評価票
（地方創生関連交付金対象事業）
【対象：平成30年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 30 年度)

事業名	ラグビーのまち府中推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを新たな地域資源として捉え、様々なイベントの実施などによりラグビー人気の定着を図るとともに、PR活動の推進、市内の子どもたち向けラグビー教室の開催などにより、市内外において「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させます。 ・「ラグビーのまち府中推進委員会」を立ち上げ、イベントの実施などを官民協働で実施することで、まちの賑わいづくりにおける共通認識とビジョンの共有を図り、将来の中心市街地活性化および商業の活性化に繋がります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標 (H28 年度)		目標 (H31 年度)		
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① ラグビーに関連する特産物や商品、飲食メニューの開発 (市内ラグビー関連スポット)	件	5		20		
		0	3	3	3	
		※平成27年度の実績	B	C	C	
② 市内でのラグビー関連イベントの参加者	人	5,000		10,000		
		1,500	7,500	8,750	9,180	
		※平成27年度の実績	A	A	A	
③ 大学やトップチームと連携するラグビー関連事業数	事業	2		9		
		2	5	8	12	
		※平成27年度の実績	A	A	A	

④	休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
			19,378	15,586	25,500	26,232	
			※平成27年度の実績	C	A	A	
⑤	市内にラグビーチームが存在することを認知している市民の数 ※市政世論調査に基づく推計値	人	257,650				
			128,052	—	171,853	199,677	
			※平成27年度の実績	—	A	A	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>平成30年度は、「ラグビーのまち府中推進委員会」の活動が3年目となり、前年度までの取組に加え、公認チームキャンプ地に決定したため、関連事業を実施し、事業の拡大を行った。</p> <p>指標②③の関連では、トップリーグ2チームや大学ラグビー部との協働事業を継続拡大し、参加者・事業者数ともに増加となり、これに伴い指標⑤にあるチームの市民認知度も大きく増加する結果となった。一方で、指標①に関連するラグビー関連商品等の開発販売については伸び悩んでいるが、市内飲食店でラグビーをモチーフとした飲食の開発がされており、まちづくり府中が開催したワンハンドフーズコンテストではラグビーボール型のパンが大賞を受賞した。また、他にも市民レベルでラグビーをモチーフとした飲食開発の動きが進んでおり、引き続き関係者との調整等を行い、具体化に向け、検討を行っていく。</p>
B	
【令和元年度における取組など】	
<p>ラグビーワールドカップ2019の開催年となる平成31年度は、本大会の開催に伴い公認チームキャンプ地のPRと一体となって「ラグビーのまち府中」PR事業を相乗的な展開を図っていく。</p> <p>①のラグビー関連商品開発については、引き続き、商工会議所・商店街連合会のほか、庁内関係部署・観光協会・まちづくり府中、市内事業者等と連携し、商品開発に限らず飲食店のメニュー開発などを広い視点で検討を進めていく。</p> <p>②③に関連しては、平成30年度までの事業を継続して展開するとともに、ラグビーワールドカップ2019に関連したイベント（公認チームキャンプ地となった国・チームを応援・おもてなしするイベント）等を実施することにより、イベントへの参加者及び協働して実施する事業数の拡大を目指していく。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I ①については、取り組みが遅れており、進捗状況は不十分である。個々の取り組みも行われているようだが、目標達成には厳しい状況であるので、施策に改善や工夫が必要である。 ・ K P I ②～⑤については、ともに取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。特に K P I ③では、ガイドブックを作成して市内各施設で配布するとともに、ラッピングバスを運行させるなど、積極的に新たな連携事業を行いイベント会場に足を運ばない方々にもラグビーのまちを広く P R する取組を進めたことが、大きく目標値を上回ったことにつながったと思われる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度はラグビーワールドカップ 2 0 1 9 が開催するが、一過性の盛り上がりで終わることのないよう、引き続きラグビーを活用することにより府中市の地域活性化やスポーツの振興、ひいてはにぎわいの創出に寄与するような取り組みを期待したい。

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 30 年度)

事業名	百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	①	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	経済観光課	
事業概要	・国内外で普及しているかるたコンテンツやかるたを題材とした人気漫画「ちはやふる」を活用し、同作品ゆかりの地である滋賀県大津市、福井県あわら市、東京都府中市の3市と、関連企業、商業施設などが官民で連携することで、かるたコンテンツを発信し国内外からの観光客を誘致します。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		85,279	88,100	90,224	90,316	
		※平成26年度の実績	A	A	A	
② 京王線分倍河原駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		89,249	92,493	94,116	95,736	
		※平成26年度の実績	A	A	A	
③ 府中市主要観光施設(観光情報センター・観光物産館・郷土の森博物館・美術館・JRA競馬博物館・サントリー武蔵野ビール工場)観光入込客数	人	1,000,000				
		819,625	956,817	939,931	845,167	
		※平成27年度の実績	A	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	○漫画「ちはやふる」をテーマにした「ちはやふるキーワードラリーin 府中」を開催した。市内5箇所に設置されたパネルに書かれた文字を集め、キーワードを完成させる企画。京王電鉄主催の「ちはやふる」スタンプラリーと同時開催して相乗効果を得た。また、府中観光協会ツイッターを使って、漫画の主人公が情報発信を行う企画も実施し、フォロワーを増加させた。さらに、今年度も引き続き、府中多摩かるた会連盟（府中白妙会）が主催する初心者かるた大会の開催に協力した。
B	○KPI の③が減少した要因については、集計期間中に、美術館が7か月間、JRA競馬博物館が4か月間、サントリー武蔵野ビール工場が3か月間休館している時期があったことが要因の1つと考えられる。
【令和元年度における取組など】	
○引き続き「ちはやふる」とタイアップした事業を継続していくが、平成29年度にはスマートフォンアプリのラリーを、平成30年度はキーワードを集めるラリーを実施したため、令和元年度はそこから趣向を変え、原画展を中心としたイベントを実施する。場所は府中駅からアクセスが良く、また、新たな府中の魅力と言える「ル・シーニュ」の「バルトホール」で実施する。アニメシリーズの3期が10月より開始されるため、ファンの熱が高い時期に合わせることで相乗効果が期待できる。	
○また、毎年実施している初心者かるた大会については、引き続き府中多摩かるた会連盟に協力して実施する。さらに、今年は同会が市内で全国大会を開催する予定であるため、全国のかるたファンに府中をPRする格好の機会ととらえ、可能な限り協力する予定である。	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I ①②ともに順調に進展しており、進捗状況は良好である。取組内容を平成29年度のスマートフォンアプリのラリーから、平成30年度はキーワードパネルを利用したラリーに変更するとともに、京王電鉄のスタンプラリーと実施時期を合わせ、互いに広報や告知を協力することで単独で実施するよりも大きな規模での誘客を行なうなど工夫が伺える。引き続き官民連携した取組を進めてもらいたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I ③については、1割弱減少しているが、対象施設の長期休館という該当年度固有の要因があったためと考えられ、また、1日あたりの客数が増加している施設もあることから、おおむね順調に進捗している。国内外からの観光客を誘致するという事業概要であるため、インバウンド誘致の施策についても実施を検討してほしい。

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 30 年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 ※平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、経済観光課、政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的な P R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1	1	
		※平成27年度の実績	A	A	A	
② 休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500	26,232	
		※平成27年度の実績	C	A	A	
③ 大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334	300	350	
		※平成27年度の実績	B	B	B	

④	東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
			17	100	66	44	
			※平成27年度の実績	A	C	C	
⑤	東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
			104	17,190	8,465	2,236	
			※平成27年度の実績	A	C	C	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①府中グリーンプラザについては、前年度に締結した基本協定をもとに、引き続き敷地活用事業者と協議を重ね、事業用定期借地権設定契約や既存建物無償譲渡契約、既存建物解体撤去に係る協定書などその後の敷地活用に必要な手続きを着実に進めた。このほか、既存施設の解体及び新施設の建設を進めるため、関係官公庁や隣接土地所有者等への説明や調整を敷地活用事業者と連携して行い、既存施設の解体工事に着手した。また、ふれあい会館敷地については、市事業の代替地として活用することとし、事業協力者と交渉を重ねた結果、土地売買契約を締結した。</p> <p>②平成30年度より、一般社団法人まちづくり府中への委託事業として実施した「キテキテ府中マルシェ」は、6月に開催した第1回は、天候に恵まれず来街者2万5千人となったものの、11月に開催した第2回では、7万5千人の方にご来場いただいた。このほかにも、一般社団法人まちづくり府中が中心となった「キテキテ府中」や「むさし府中まちゼミ」などのソフト施策の充実、効果的な連携などにより、歩行者通行量も増加傾向にある。</p> <p>③一般社団法人まちづくり府中が主催する府中駅南口に立地する大規模商業施設間の合同セール「キテキテ府中」や本セール期間中に開催される「FUCHU WORLD FESTIVAL」の認知度が高まってきたこともあり、中心市街地のにぎわい創出に寄与した。また、大規模商業施設の年間販売額については、平成29年7月に開業したル・シーニュの売上高なども加算されたことにより、前年度と比較して1割以上の増額となった。</p> <p>④⑤東京競馬場とのタイアップ事業については、平成28年度は、地方創生加速化交付金の補助率が10分の10であったこともあり、大規模なPR等を行い、実績値がKPI目標値を大幅に上回った。しかし、事業の「持続性」という観点からは、課題があった。</p> <p>平成29年度以降は、「費用対効果」や事業の「持続性」も重視し、実施方法等を模索しているが、結果としては、目標値を大幅に下回った。平成29年度から平成30年度の減少要因としては、参加店舗数の減少に加え、実施期間が4か月から1か月半に短縮したことで、利用者への参加意欲を掻き立てられず、結果に結びつかなかったことによるものと推察している。</p>
B	

【令和元年度における取組など】

- ①旧府中グリーンプラザについては、既存建物の解体撤去の進捗管理を行うとともに、新施設竣工に向け敷地活用事業者との調整を引き続き行っていく。旧ふれあい会館については、既存建物の解体撤去を行い、事業協力者へ引き継ぐこととする。
- ②ラグビーワールドカップ2019の開催期間中には、本市を公認キャンプ地とするフランスとイングランドにちなんだミニマルシェ（仮称）を実施するなど、市内外から多くの方に来訪いただき、回遊していただくための仕掛けづくりに努め、休日の歩行者通行量の増加を目指す。
- ③大規模商業施設の年間販売額の増加に向けた取り組みとしては、本年9月末に伊勢丹府中店が閉店を迎えることから、本市における商業活動に大きな影響を及ぼすものと想定されるが、ラグビーワールドカップ2019をはじめとする国際的なスポーツイベントの開催を契機に、本市の魅力を効果的に発信していくべく、関係団体との連携を密なものとし、にぎわいの維持、向上を目指していく。
- ④⑤東京競馬場とのタイアップ事業については、これまで秋競馬開催時期のみに実施をしていたが、より来場者が多い春競馬の開催時期にも実施するなど、実施時期や回数などについて再度検討を行うとともに、参加店舗数を増加させることにより、利用者の幅広いニーズに応えられるような事業体制の構築を目指す。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・K P I ①については、1施設については手続きを進め、既存建物の解体工事に着手しており、別の1施設についても、土地売買契約を締結するなど手続きに着手しており、進捗状況は良好である。 ・K P I ②については、取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。 ・K P I ③については、新たな大規模商業施設の開業および施設間の合同イベントの開催等により、大幅な増加となり目標達成に向けおおむね順調に進捗している。引き続き、次年度の大規模商業施設の閉店の影響を見据え、施策に工夫が求められる。 ・K P I ④及び⑤については、昨年度よりかなり低迷していて、現状ではK P I 目標に向けて達成が難しいので、競馬場という地域資源を有効に活用した取組の実施に向けて進めてもらいたい。地方創生関連交付金を活用した一過性の取組としては成果を出していることから、実施日数の拡大や開催時期を検討して利用者の増加に努めるとともに、今後は新たな交付金受給を図りながら、持続的な仕組みを構築することを期待したい。
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【対象：令和元年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	①	市内企業の経営支援
主担当課	産業振興課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・むさし府中商工会議所と連携し、経営指導や金融支援などといった経営支援を行い、雇用の確保と地域経済の活性化を目指します。 ・商店街のより一層の活性化に向けた取組を支援します。 ・産・学・金・官の連携等を図り、新たな商品開発や人材交流につなげ、市内産業の振興を支援します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 融資実行件数	件	300					
		292	283	252	243	247	272
		/	B	C	C	C	B
② 商店街イベント事業補助金交付商店会数	件	32					
		28	30	30	29	29	28
		/	A	A	A	A	A
③ 技術相談を行った件数	件	470					
		463	456	407	462	536	516
		/	B	C	B	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①事業資金融資利子補助について、過去3年間の申込件数は、平成29年度が285件、平成30年度が312件、平成31年度が295件と減少に転じたが、実行件数は増加している。</p> <p>12月頃までは、民間金融機関の直接融資を利用する企業が増え、市内企業の景況が徐々に回復しつつあると聞いていたが、1月以降は新型コロナウイルス感染症の影響で、資金調達のため低金利の市制度融資の実行件数が増えた。</p>
B	<p>②イベント事業に対する補助継続を継続して行うことで、28商店会、延べ44事業分の商店街活性化等に寄与する事業への支援を継続することができた。</p> <p>③府中市工業技術情報センターへ相談した会社1社当たりの相談件数は平均3件、また、技術相談の結果として製品開発につながった、あるいは開発途中の件数は2件ある。都の施設の充実等により、専門的な技術相談対応から、補助金等申請支援相談や技術情報提供等へ重点を移し支援することができた。</p> <p>また、産学連携によるマッチング支援として7社の交流あつ旋を行い、市内産業の振興を図った。</p>

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】

担当課
評価

①市制度融資は、利率の補助により、低金利で資金調達することができ、市内企業の経営安定に寄与してきた。この5年間の取り組みとしては、利用しづらさや周知不足による利用減少を避けるため、市内企業や金融機関への聞き取りにより、限度額や返済期間の拡大などの制度見直しを行った。また、パンフレットの刷新を行い、周知を徹底させた。しかし、近年、民間金融機関の融資利率が低金利化していることや、中小企業の景況が緩やかな改善基調にある（中小企業庁の中小企業景況調査報告書による）ことなどにより、市制度融資の利用が減少していた。
 今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により、急激に景況が悪化していることから、市内企業のニーズに合った経営支援ができるよう、動向を注視していく。

②昨今、商店会の弱体化が顕著化している中で、本事業は商店会来街者数の増加に大きく寄与してきた。しかしながら、前年度と同様のイベントをしている商店会が非常に多く、さらにこの5年間の動向をみると、実施件数の減少が見受けられる。
 今後は、より活性化につながる新規的な事業を促していくことを検討したい。

③工業技術情報センターの存在により、市内の中小企業者の新たな製品開発や技術革新の取組支援につながっていると評価できるものの、近年、都の施設の充実等により、専門的な技術相談指導の比率は低下傾向にある。
 この5年間は、専門的な技術相談対応から、補助金等申請支援相談や技術情報提供等へ重点を移し支援することができた。また、センターをむさし府中商工会議所へ移したことで、同会議所と連携し支援した。
 今後は、連携を深め、市内商工業者の相談拠点の一元化により、利用者のニーズに合った支援の内容等について、更に検討を行っていく必要がある。

B

【令和2年度における取組など】

- ①新型コロナウイルス感染症の影響で、市制度融資の中でも低金利融資の利用が増えると思われたが、5月より開始された全国一律の感染症対応融資（都道府県の制度融資）が無利子無担保となり、市制度融資の利用は減少している。その中でも、コロナ対策として、信用保証料の補助を開始し、市内企業の経営安定を資金調達の面から支援する。
- ②イベント事業に対する補助を継続して行うことで、商店街の活性化等に寄与する事業を行う商店会への支援を継続していく。また、むさし府中会議所や商店街連合会等と連携を図り、より商店街等の活性化につながる新規的な事業を促していく。
- ③補助金等申請支援相談や技術情報提供に重点を置き、支援を継続していく。また、むさし府中商工会議所と連携し、市内商工業者の相談拠点の一元化により、新たな支援を開拓していく。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	①目標値には届かないものの、融資実行件数が25件増加としており、2年連続の増加でおおむね順調に進捗していると評価できる。今後、新型コロナウイルス感染症の影響により市制度融資利用のニーズ増加も予想され、引き続きの支援に期待する。
B	②平成30年度から1商店会、2事業分の支援が減少したものの、微減に留まっている点は評価できる。また、目標達成に向けて、市が補助金対象としている48の商店会において、補助金交付を受けている商店会の固定化はないか、未実施の商店会における課題は何か等の確認も必要ではないかと考える。 ③平成30年度と比較すると△20件とやや減少したものの、目標を達している状態を維持しており評価できる。今後、重点の移行や相談拠点の一元化により更なる市内産業の振興支援が期待できる。

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	②	多様な人材の就労支援
主担当課	産業振興課、地域コミュニティ課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労意欲のある方が積極的に地域で活躍できるよう、若い世代の就業機会の拡大、働く意欲のある高齢者の就業機会の提供などを支援します。 ・ 講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援するとともに、市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組についての啓発を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① いきいきワーク府中の就職率	%	36.8					
		32.1	27.2	26.4	24.8	24.2	23.7
		/	C	C	C	C	C
② 女性向け再就職支援の講座数	講座	現状値以上					
		5	5	5	4	3	3
		/	A	A	A	B	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①高年齢者の職業紹介事業は自所求人開拓を積極的に取り組み、就職者数227人、来所者数2,116人、自所開拓求人数2,591件と都内でもトップレベル（令和元年度は2番目）の実績をあげた。</p> <p>定年の引上げ等により求職者の年齢がさらに高くなり高年齢者の就労機会がさらに厳しさを増している状況の中、丁寧な対応を行い再就職につなげた結果、就職者数は年間220人前後を堅持している。求職登録者数は増え続けており、評価指標として就職率は低下する結果となった。</p> <p>システム改修の遅れにより、一時ハローワーク求人データが配信されないトラブルもあったが、かねてから自所開拓により地域に密着した求人を求職者に紹介していることで、就職者数も堅調に実績を上げたことは評価できる。</p> <p>市とセブン-イレブン・ジャパンとの地域活性化包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」や、都の新規事業である「シニア就業支援キャラバン」などに積極的に協力したことにより、新規求職者が増加した。</p>
C	<p>②再就職支援講座を3講座（延3回、受講者26人）実施し、出産や介護等の理由により離職した女性の再就職を支援した。なお、平成28年度～30年度までは、東京都の全額補助を活用して講座を実施していたが、令和元年度は当該補助事業の終了により、講座の実施回数が減っている。また、令和元年度実施した講座についてはスキルアップ等を目的としているため、就職者数を把握していない。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>①はつらつ高齢者就業機会創出支援事業は、地域に密着した自所開拓した求人を増やし、求職者の希望・能力・適性などを考慮したうえで丁寧な対応を行うことで就職者数も220人前後を堅持することができた。このことは同事業を行っている12区市でトップレベル（令和元年度は2番目）の実績を上げていることは大いに評価できる。</p> <p>高年齢者の求職者は増え続けており、求職者の年齢層も年々高くなっていることから、相談員が高年齢者の希望する職種や、地域に密着し能力・適性に合った求人をさらに開拓し、より多くの高年齢者が再就職できるよう事業の充実を図る必要がある。</p>
B	<p>②継続的に再就職の支援を行うことができたが、直近3年間は、複数講座の統合や関係機関との共催講座の実施が困難となるなどの理由から、講座の実施が目標値を下回っており、回数を増やす必要がある。</p>

【令和2年度における取組など】

①ハローワークの求人情報に加えて、勤労者福祉振興公社が独自に集めた求人情報を提供して実施する概ね55歳からの無料職業紹介事業「いきいきワーク府中」に対して引き続き支援していく。求人数及び就職者のニーズに対応するため、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センター等と連携を図り、再就職支援講座や就職面接会を行い、高年齢者の再就職を支援していく。

求職者の年齢層も年々高くなっていることから、再就職に結びつけることがより困難な高年齢者を支援するシニア活用支援員を活用した、おおむね65歳以上の方を対象にした職場体験事業をあらたに実施する。

②引き続き、講座を開催し、出産・育児・介護などの理由により離職した女性の再就職を支援していくとともに、講座を増やすため、関係機関等へ働きかけを行う。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	①の実績については、目標値 36.8%に対して、令和元年度は 23.7%と数値の面では厳しい状況ではあるが、市とセブーンイレブン・ジャパンとの地域活性包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」や都の「シニア就業支援キャラバン」などへの積極的な協力による新規求職者の増加や地域に密着した求人開拓でのマッチングは評価できるところである。引き続き、利用者が求める職種の開拓に力を入れるなどの対策とハローワーク等との連携強化による就職率向上を目指していただきたい。
B	②女性向け再就職支援講座については、都による補助事業制度の終了により、講座数が減少している状況ではあるが、再就職支援講座については、再就職を目指すスタートラインとなることから、利用者ニーズを把握し、再就職に結びつくような講座運営をお願いしたい。

※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	2	起業・創業の推進による産業構造の多様化
具体的な施策	①	起業・創業の支援
主担当課	産業振興課、協働推進課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業・創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、相談体制を確保するとともに、セミナーなどにより、起業・創業希望者を支援します。 ・ 東京農工大学をはじめとする教育機関や市内団体等と連携し、コミュニティビジネスの立ち上げや、インキュベーションオフィスの活用も含め、商・工・農における起業や創業に関する多様な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 起業・創業に関するセミナー参加人数	人	90					
		44	115	80	62	72	89
		/	A	B	B	B	A
② コミュニティビジネスに関するガイダンス・個別相談の参加人数	人	24					
		6	24	10	28	80	80
		/	A	B	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、創業支援事業計画に基づく創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保することができた。また、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾については11回、延べ89人の参加があり創業希望者の継続的な支援を行うことができた。なお、KPI①の参加人数については、年度ごとに増減があるものの、セミナーに参加された方のうち、実際に創業した人数は、H27が8名、H28が6名、H29が13名、H30が23名、R1が23名と概ね増加傾向にある。</p> <p>②引き続きコミュニティビジネス個別相談を実施するとともに、令和元年度は新たにコミュニティカフェ開設の内容に特化した連続講座を実施した。また、中小企業大学校や商工会議所、金融機関等と連携した創業支援イベントを実施した。結果として、市民活動センタープラッツにて継続的に創業支援を行っていた方2名が起業し、コミュニティビジネス立ち上げ件数は累計4名となった。（総合計画の目標値は累計3名）</p>
A	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①平成26年度から開始された、創業支援等事業計画に基づき、創業支援プロジェクト機関を中心とした創業支援が確立できた。また、プロジェクト機関として、日本政策金融公庫が加わり、創業支援等事業の種類も拡大した。その結果、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾に参加し、実際に創業した人数も徐々に増加してきた。今後もプロジェクト機関との連携を継続し、相談体制を確保していく。</p> <p>②市民活動センターにおいて、各種講座や相談事業を展開することにより、少しずつコミュニティビジネス実践者が増えてきている。また、金融機関による個別相談事業をはじめとして市民活動センタープラッツと市内創業支援関係機関と連携して事業を実施することができた。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>①創業に関する基礎知識や事例、各種補助・制度の情報などについて、創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保していく。また、創業支援プロジェクト機関における創業に関するセミナー及び創業塾の開催を継続し、創業希望者の支援や創業希望者同士の交流の場をつくっていく。</p> <p>②創業者等の課題に対して、よりきめ細かく助言をするため、行政書士、金融機関、税理士、中小企業診断士、デザイナー等幅広い職種による個別相談アドバイザー制度を創設する（オンライン相談可能）。また、多摩地域の創業支援関係機関とも連携して社会課題解決の協働事業を生み出す連続ワークショップを開催し、有機的にコミュニティビジネス立ち上げ支援を実践する。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	①起業・創業に関するセミナー参加人数は、H30の72名に比べてR1は89名と増加しており、創業希望者にとって関心の高いセミナー等が開催されていることは評価できる。しかし、セミナー参加人数に対する実際の創業者の割合は、R1の方が低くなっている（H30は約32%、R1は約26%）。創業者がより利用しやすい融資等の制度や、新しい時代に即した経営手法等を分かりやすく周知するなど、創業の不安を解消できるような支援を期待したい。
A	②創業支援を受けた方が、実際にコミュニティビジネスを立ち上げたことは評価できる。今後もコミュニティビジネス実践者の増加を目指すとともに、立ち上げたコミュニティビジネスが地域に根ざし、事業として継続していけるよう、多角的な助言を受けられる体制づくりに期待したい。

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	①	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	観光プロモーション課、広報課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や市内の事業者、企業、学校等と連携を図り、市の魅力を発信して、来訪者の増加を図ります。また、市民に対しては、市の魅力を再認識してもらい、住み続けたいと思う市民を増やします。 ・府中市の魅力を再発見を行政だけでなく、市民、各種団体等と協働で取り組み、「武蔵国 府中大使」や様々な機会・媒体を通じて発信し、にぎわいの増進を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上					
		85,279	86,949	88,100	90,224	90,316	88,769
		/	A	A	A	A	A
② 市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合	%	15.0以下					
		17.7	17.3	17.4	17.0	16.6	16.9
		/	B	B	B	B	B

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①ラグビーワールドカップ2019開催に向けた取組として、訪日外国人観光客に本市を訪れていただくため、引き続き、成田国際空港到着ロビーにおける本市の外国人観光客向けPR動画の放映、外国人インフルエンサー等を活用した情報発信、SNS等を活用した多言語での情報発信に加え、新宿アルタビジョン及び渋谷スクランブル交差点街頭ビジョンにおいてもPR動画を放映した。さらに、京王線新宿駅を中心に、大会期間中に実施された市制施行65周年記念市民パレードやFUCHU RUGBY WEEKなどに関する大規模な広告展開を行ったほか、都内のホテル・観光案内所等に本市の多言語ガイドブックを設置、大会会場周辺の高輪駅・調布駅では本市をPRするブースを設置するなど、本市への誘客に努めた。また、府中駅に英語対応もできる観光案内ブースを設置したほか、大会チケットホルダー等に向け実施した市制施行65周年記念乗車券の配布、多言語でのコミュニケーションに対応できる指さし会話帳や飲食店向け指さしシートの市民・事業者への配布など、おもてなしに関する取組を充実した。</p> <p>観光振興の取組として、観光PR用パンフレットの作成や観光振興をテーマとした写真コンクールを実施し、市の魅力をPRした。また、観光客の利便性を図るため、大國魂神社くらやみ祭において、観光客用の仮設トイレ及び誘導看板の設置を行った。そのほか、映像を通して郷土愛の醸成を図るため、ロケ撮影の支援を行うフィルムコミッション事業を実施した。漫画「ちはやふる」等のキャラクターを活用したデザインマンホールを製作・設置した。また、各マンホールの設置場所等を掲載した「ちはやふるデザインマンホールin府中」を作成し、周知を図った。武蔵国 府中大使として、新たに神宮エミ氏、府中アスレティックFCプリメイラ、アスレファンタジスタの1名・2団体の任命を行った。</p>
B	<p>②広報紙を予定どおり発行し、拠点配布として、ファミリーマート（サークルK・サンクス）、セブンイレブン、東京外国語大学、東京農工大学などで配布したほか、ホームページや行政情報アプリ「マチイロ」などに掲載した。また、テレビ広報を予定通り制作・放映したほか、ホームページ・メール配信サービス・ツイッターなどによる情報発信も継続して実施した。</p>

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】

<p>担当課 評価</p>	<p>①府中市観光振興プランに基づき、観光資源の魅力の発信と、観光客の受入態勢の整備を実施してきた。また、イベント会場への観光PRブースの出店や、フィルムコミッション事業の実施により、本市の魅力を市内外において積極的にPRしてきた。また、府中×漫画で活性化事業では、漫画「ちはやふる」を活用したイベント等を継続的に実施し、誘客・回遊を促進した。広域連携事業では、京王線・南武線沿線自治体との連携に係る費用を平成30年度から予算化し、本格的に事業を進めた。観光パンフレットや案内表示の多言語化に着手し、外国人観光客の受入環境整備を進めてきたほか、平成30年度からは外国人観光客の誘致促進の取組を本格実施した。</p>
<p>B</p>	<p>②平成28年度に新たにセブンイレブンでの広報紙の配布を開始したほか、平成30年度には行政情報アプリ「マチイロ」に広報紙を掲載するなど、手軽な市政情報の入手に資する事業を実施した。一方で、指標が横ばいとなっていることから、マチイロやメール配信サービスなどの情報入手手段について、周知と登録促進を図っていく必要がある。</p>

【令和2年度における取組など】

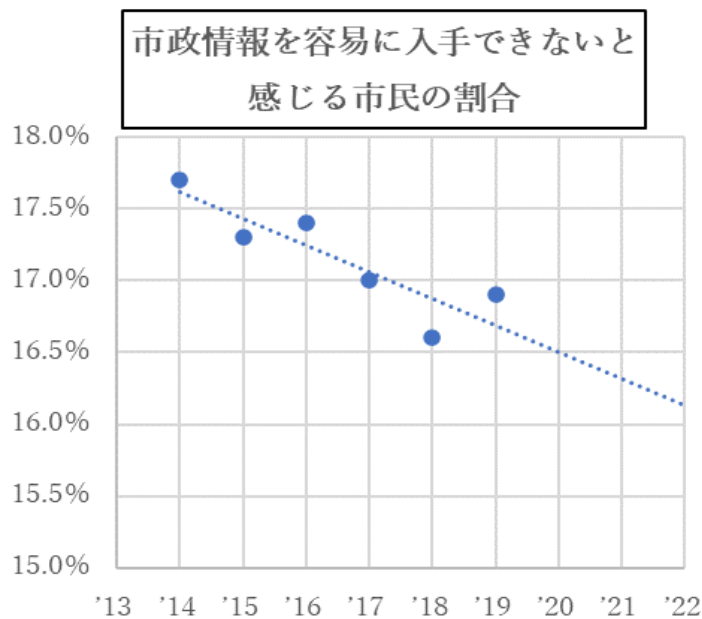
- ①新型コロナウイルスの影響で国内はもとより、海外からの外国人観光客の受け入れ再開時期が未定であり、事業の実施時期等、判断が難しい現状がある一方で、今後、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催にあたり、外国人観光客に対しての本市の認知度向上や観光客の誘致促進を強化していく必要があるため、引き続きインバウンド関連の多様な事業を展開し、その足がかりとしていく。
- また、観光客を誘致するためには、市外の方へのPRを効果的に実施する必要があり、近隣市町村との広域連携を強化し、面での観光客誘致施策を実施することで、本市の魅力や観光情報に触れる機会を増やし、本市への来訪者の増加を図っていく。
- ②広報紙・テープ広報の年36回発行、テレビ広報の年36本製作・放映、ホームページ・メール配信サービス・ツイッターの適正な管理・運用などを行い、市政情報を発信する。また、市政情報を発信している情報媒体及び入手手段などを広く周知するため、それらの情報を掲載した広報紙の全戸配布を行う。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>指標①の「京王線府中駅における1日の乗降人員」については、減少傾向がみられるものの京王線全体で減少していることを考慮すると施策に一定の効果があったものと評価できる。（ちなみに調布駅は18年:129,968 →19年:130,065の微増）</p> <p>指標②の「市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合」については、KPI数値の目標値への減少傾向が鈍化しているため、目標達成に向けて改善や工夫が必要と評価する。（下記グラフ参照）</p> <p>市政情報を入手するにはホームページが一つの入口となる。個人的経験からの提案になるが、そのホームページでの検索がなかなかヒットしないので、これを改善することも有効と考える。</p>
B	<p>総合的には目標に向けて概ね進んでおり、協議会としての評価はBでよいと思われる。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。



具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	観光プロモーション課、産業振興課、政策課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中駅周辺のエリアマネジメントを推進し、にぎわいを創出することで、中心市街地の活性化を図ります。 ・ラグビーワールドカップ日本大会及び東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、日本全国に、そして海外に府中市の魅力を発信するとともに、地域が一体となって国内及び海外からの訪問者の受入環境の充実・強化を進めます。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 休日のけやき並木通りの歩行者交通量	人	現状値以上					
		19,378	19,378	15,586	25,500	26,232	28,330
		※平成27年度の実績	—	C	A	A	A

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>○市有地を活用した実証実験として、令和元年10月より、カフェ・レストラン「府中テラス」をオープンさせ、飲食業種の新たな形でのにぎわい創出を図ろうとしている。</p> <p>○引き続き、市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業として、竹あかりライトアップ事業、キテキテ府中マルシェ、東京競馬場来場者を中心市街地に呼び込むためのタイアップ事業などを実施し、市内外の方々に府中への来街機会を創出した。</p> <p>○各種事業者との連携による新たな価値や効果を生み出すエリアイベント事業として、ラグビーワールドカップ2019の開催に伴い、けやき並木通りで実施されたラグビーウィークなどにおいて、飲食ブースやステージイベント等を組み合わせた「府中ストリートバル」を実施したことにより、計9日間で約20万人が訪れるなどにぎわいを創出することができた。</p> <p>○訪日外国人観光客に本市を訪れていただくため、成田国際空港到着ロビーにおける本市の外国人観光客向けPR動画の放映、外国人インフルエンサー等を活用した情報発信、SNS等を活用した多言語での情報発信に加え、新宿アルタビジョン及び渋谷スクランブル交差点街頭ビジョンにおいてもPR動画を放映した。さらに、京王線新宿駅を中心に、大会期間中に実施された市制施行65周年記念市民パレードやFUCHU RUGBY WEEKなどに関する大規模な広告展開を行ったほか、都内のホテル・観光案内所等に本市の多言語ガイドブックを設置、大会会場周辺の多磨駅・調布駅では本市をPRするブースを設置するなど、本市への誘客に努めた。</p> <p>また、府中駅に英語対応もできる観光案内ブースを設置したほか、多言語でのコミュニケーションに対応できる指さし会話帳や飲食店向け指さしシートの市民・事業者への配布など、おもてなしに関する取組を充実した。</p> <p>＜KPI①の調査条件について＞</p> <p>○測定日時：令和元年12月1日（日）7時から19時（合計12時間）</p> <p>○場所：けやき並木通り（ル・シーニュ前） 天候：くもり</p>
A	

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>○「一般社団法人まちづくり府中」の事業を中心に、にぎわい創出を図っている。府中駅周辺の商業施設と連携した「キテキテ府中」、市内の回遊性を促すための「東京競馬場タイアップ事業」また、各種事業者との連携による新たな価値や効果を生み出すことを目的とした「エリアイベント事業」など様々な事業を展開し、これらの取り組みについては、着実に市民にも認識をされてきている。引き続き、各機関や業界と連携しながら、にぎわいの創出を図りたい。</p> <p>○ラグビーワールドカップ2019を、本市に外国人観光客を誘客する絶好の機会ととらえ、これまで様々なプロモーション活動を実施してきたが、ビックデータを活用した訪日外国人の動向調査の結果では、府中市への日帰り客数が平成30年と令和元年の10月比では2,700名から5,700名に111%。9月も108%、11月も13%の増加がそれぞれ見られ、年間では20.6%の増加となり、これまでの取り組みについては一定の効果があつたものにとらえている。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>○新型コロナウイルスによる売上減少の影響を受ける市内飲食店へ、クラウドファンディングを活用して資金支援を行い、支援者に対し、後日飲食店で使用できる食券を配布することで、新型コロナウイルス収束後、市内のにぎわいをいち早く取り戻すような取り組みをする。</p> <p>○例年に引き続き、「おもてなしライトアップ」、「キテキテ府中マルシェ」及び「東京競馬場タイアップ事業」を行う。更に、新たな事業として町の様々な飲食店をチケット制で食べ飲み歩きをして楽しんでいただく「まちバル」や「ふちゅうパンマルシェ」を実施し、にぎわい創出を図る。</p> <p>○東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成事業を行い、各機関との連携を強化することで一層のにぎわいを創出する。</p> <p>○東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運醸成を図るべく、「ロードレースおもてなし事業」と称してイベント事業のほか、インフルエンサーを活用した情報発信、けやきを五輪色にライトアップする事業を展開する予定。</p> <p>外国人観光客向けの情報発信では、SNSや各種ホームページでの情報発信を継続するほか、成田国際空港到着ロビー及び渋谷スクランブル交差点街頭ビジョンにおけるPR動画の放映を行う。また、令和元年度に作成した多言語ガイドブックのリニューアルと言語の追加を行う。</p> <p>おもてなしに関する取組として、同じく令和元年度に作成した指さし会話帳について、リニューアルと言語の入替を行う。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>K P I で見る数値推移においては順調な伸びを示し、実績値では令和元年度46%増であり、目標は十分に達成している。一般財団法人まちづくり府中との様々な事業連携、ラグビーワールドカップ2019を契機とした府中市の魅力を市内外へ発信できたことと評価する。また、インバウンド需要が高まる中その流れをつかみ、様々な工夫した事業展開により府中市の認知度の向上や外国人おもてなし事業を評価する。</p>
A	<p>令和3年度は、2020東京オリンピック・パラリンピックや旧伊勢丹の再活用が見えている中、ル・シーニュを含めた府中駅周辺の核となる店舗を絡め連携し、府中市としての付加価値どのように創出し、賑わいと消費増につなげるのか経済効果としての視点を数値化してみることも重要と思われる。</p> <p>今後の事業展開として、コロナ対策に配慮したナイトタイムエコノミーの促進を期待する。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成		
基本的方向	2	郷土への愛着を感じるふるさと意識の醸成		
具体的な施策	①	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実		
主担当課	文化生涯学習課、スポーツ振興課		関連課	ふるさと文化財課、美術館
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の伝統芸能や芸術文化を継承していくとともに、文化施設や歴史・文化遺産を活用して、郷土愛を持てるまちを目指します。 ・スポーツタウン府中の発展に向け、各種競技団体、市内の大学や市内を活動拠点とするトップチームなどとの連携を深め、府中市ならではの事業を展開します。 			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 郷土の森博物館及び美術館の入場者数	人	533,000					
		489,602	498,579	569,685	530,738	419,188	579,175
			A	A	A	B	A
② 大学やトップチームと連携する事業数	事業	3					
		2	2	3	4	5	5
			A	A	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①郷土の森博物館では、平成30年度にリニューアルオープンしたプラネタリウムを活用するとともに、展示会、出版、講座、体験学習、あじさいまつり・梅まつり、市民団体との共催事業、調査研究事業等を多彩に展開し、市民の知的レクリエーションの場としてふさわしい魅力ある博物館づくりに努めた。</p> <p>令和元年度は、東日本台風（台風19号）の襲来やコロナウイルス感染拡大防止対策のため施設利用の一部休止や臨時休館をしたが、利用者数（276,650人）は前年度（274,662人）を超え、1日当たりの平均入場者数（903人→988人）も前年度から大幅に伸びた点は、取組みの成果として評価できる。</p> <p>市史編さん事業では、7分野からなる専門部会による資料収集・調査・研究を進めるとともに、その成果に基づいて、ビジュアル・多言語版の『武蔵府中まちの歴史物語』、『中世資料編』、『近世資料編上』、『民俗報告書』、『自然報告書』、研究紀要の『武蔵府中を考える』の計6種類の市史刊行物を発行した。さらに市史編さんの成果を活用して、本市の観光事業との協働による講演会を実施した。</p> <p>また美術館では、企画展・公開制作・鑑賞教室等を実施するとともに、市民ギャラリーでは、市内で活動する個人・団体の展示を実施し、来館者数は、開館以来はじめて、30万人を上回るなど、十分成果を上げていると評価できる。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019開催に合わせて実施した府中ラグビーウィークで、海外や市外などから本市を来訪する方々に府中囃子、武蔵国府太鼓の郷土芸能や日本文化の紹介及び体験など市内の文化・芸術団体の方々に協力をいただき実施した。また、市指定の無形民俗文化財である府中囃子の演奏技術の伝承に年間を通して支援するとともに、市民を対象とした武蔵国府太鼓講習会を継続して実施し、伝統芸能の普及に努めた。</p> <p>②本市はサントリーサンゴリアス、東芝ブレイブルーパス（ラグビー）、府中アスレティックFC（フットサル）、FC東京（サッカー）、FC東京バレーボールといった、複数のトップチームが市内を活動拠点や練習拠点等としており、全国でも珍しいその特性を生かした、イベントや講座などを実施している。</p> <p>令和元年度は、これらトップチームが一堂に会し連携した、「ボールふれあいフェスタ」では1,700人の参加、市内6か所の地域体育館で体育の日に開催する「みんなのスポーツday」では、一部トップチームの協力及び大学のボランティアサークル等とも連携し開催することで、6館計で令和元年度1,640人が参加、総合体育館においては、府中アスレティックFCによる、2講座（フットサル、チアダンス）、サントリーサンゴリアスによる1講座（タグラグビー）を行うなど、市特有の事業として展開し、スポーツタウン府中の発展に寄与した。</p>
A	

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】

担当課
評価

①郷土の森博物館は、昭和62年の開館以来、ふるさと府中の貴重な歴史資料の収集・保管・活用を図るとともに、本市の歴史・文化の拠点かつ多摩地区の総合博物館としての役割を果たしてきた。平成26年には本館常設展示室を、平成30年にはプラネタリウムをリニューアルし、ふるさと府中の魅力をより効果的に学習する機会を創出した。一方、園内に四季折々の花を育て鑑賞の場として提供するなど、あらゆる世代が愛着の持てるフィールドミュージアム作りにも取り組んできた。

開館30年以上を経過し、施設の老朽化が進んでいることから、博物館の教育施設としての機能を維持・提供しながら、計画的に老朽化対策を進めることが今後の課題である。

市史編さん事業は、平成26年度に始まり令和5年度の完了を予定している。その間に各時代の基礎資料を集成して資料編を編集し、さらに各時代の通史編や附属刊行物を発行する。現在、編さん計画は順調に進行している。

美術館では、企画展・常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めてきた。「入館者数」を平成30年度までに220,000人とする第6次総合計画・後期基本の指標を平成28年度に達成し、その後も天井改修工事の影響で約半年間休館となった平成30年度を除き順調に推移している。

開館20周年を迎える2020年は、当初「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画があり、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和元年度に、一部トイレの洋式化など、バリアフリーの向上に努め、利用者の利便性の向上を図った。

ラグビーワールドカップ等のイベントへの参加を通して郷土芸能である府中囃子及び武蔵国府太鼓の市内外への普及に努めるとともに、演奏技術の伝承を行うため、継続して後継者育成に取り組んだ。また、平成29年度に府中囃子の演奏を収録したCDの作成・販売を開始し、平成30年度には武蔵国府太鼓を収録したDVDの作成・販売を開始し、市内外へ広く普及に取り組んだ。

A

②計画開始2年目である平成28年度には、スポーツタウン府中を標榜する本市の市政に対し、各トップチームが地域貢献の立場から協力的に事業実施を行うことができたため、目標値としていた3事業（フットサル教室・チアダンス教室・バスケット教室）を、総合体育館において、アルバルク東京や府中アスレティックFCの協力のもと実施したほか、平成30・31年度には、サントリーサンゴリアスによるラグビー教室を実施しており、参加者からこれを機会に競技を始めたいとの多数の声が挙がり好評を得た。

その後も従前の事業を見直し・継続しつつ、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツday」においても継続的に協力を得られており、計画以上の5事業を達成していることから、スポーツタウン府中の実現に向け、成果を上げているものと捉えている。

【令和2年度における取組など】

①郷土の森博物館では、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、令和2年6月2日に再開館した。当面はリスク評価を行いながら利用者の安全を最優先に考え、段階的に機能を再開していく。さらに、新型コロナ時代と共存する新しい展示や体験学習等のあり方についても検討を進める。

また、本年10月からは、本館特定天井改修工事のため常設展示室・企画展示室が休室となる予定であることから、本館内及び復元建築物を活用した展示を充実させるとともに、展示・プラネタリウム・園内の回遊を利用者に促し、敷地全体を生かした利用者に親しまれる博物館づくりに引き続き取り組む。

市史編さん事業では、令和2年度にも資料編、報告書、付属刊行物の発行を予定しており、編さん成果に基づく市民向けの講演会の開催も計画している。

美術館では、企画展、常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めるとともに、令和3年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画の影響で、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和2年度に、すべてのトイレを洋式化し利用者の利便性の向上を図っていく。

市指定の無形民俗文化財である府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成に継続して取り組む。

②令和2年度の取り組みについては、本事業の主な会場となっている総合体育館が令和元年台風19号の被害により長期休館を余儀なくされており、また新型コロナウイルス感染症の対策として、施設を休館しイベントを中止したため、事業数が大きく減少することが考えられる。総合体育館については、早期の復旧に取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、今後も、参加者満足度の向上のため事業内容を工夫するとともに、トップチームなどとの連携を深めながら、更なる充実を目指していく。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①郷土の森博物館及び美術館の入場者数は目標値 533,000 人に対し 579,175 人と大きく上回った。郷土の森博物館では、台風 19 号や新型コロナウイルスの影響から臨時休館を余儀なくされたものの、前年度と比較して、年間入場者数及び一日当たりの平均入場者数は増加したことは評価できる。また、美術館でも、開館以来はじめて 30 万人を上回るなど大きく評価できる。それぞれ様々な企画・展示を行っており、入場者数が増加した要因を明確にすることで、今後の取り組みの発展に期待したい。</p> <p>また、市史編さん事業や府中囃子などの伝統芸能の普及支援の取り組みも評価できる。今後の継続・発展に期待したい。</p>
A	<p>②大学やトップチームと連携する事業数は、前年度に引き続き 5 事業と目標値を上回っていたことは評価できる。本市の特徴でもある複数のトップチームと連携した、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツ day」といった事業を今後も継続していくことに期待したい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	①	安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実
主担当課	子育て応援課、子ども家庭支援課	
施策概要	・妊娠期からの子育て不安の解消に向けて、適切な情報提供を行うとともに、各種健診や教室などを実施します。また、出産前後の家庭の育児や家事を支援し、出産に係る母親の負担感の軽減を図ります。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① Fu-CHUこそだてサイト「ふわっと」アクセス数	人	現状値以上					
		24,807	26,924	23,887	50,146	59,276	41,115
			A	B	A	A	A
② 産前産後家庭サポート事業の新規登録世帯	世帯	現状値以上					
		213	224	220	213	269	328
			A	A	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①子育てサイト及びアプリを継続して運営し、幅広く出産や子育ての支援に関する情報提供を行い、育児に係る不安の解消等を図った。主な対象である未就学児童が減少したことや新型コロナウイルスの影響でイベント情報等の掲載ができなかったことにより一時的にアクセス数等が落ちたが、子ども家庭支援センター「たち」、地域子育て支援センター「はぐ」、中央図書館などから子育てに役立つおたよりを配信するなど、内容の充実に努めた。</p>
A	<p>②産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等を図った。</p> <p>※全妊婦を対象に、妊婦健康診査、超音波検査、HIV抗体検査、子宮頸がん健診の費用助成（対象者1,927人、延べ22,856件）をした。母親学級を年11回、両親学級を年11回実施し、延べ897人の参加があった。離乳食教室、年51回（参加者延べ1,072人）、親と子の歯みがき教室年11回（参加者延べ185人）を実施した。必要時、妊娠届、健診、教室から助産師及び保健師の相談や訪問につなげた。また、子育て世代包括支援センターとして妊娠届出時に全妊婦に看護職等による面談を引き続き実施し、母子の健康保持増進及び安心して子供を産み育てるための環境づくりを充実させた。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①子育てサイト及びアプリについてはサイトのリニューアル、アプリ機能の追加、多言語機能の搭載などの取組により成果をあげることができた。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業の実施により、育児不安を抱える保護者にきめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等を図った。周知方法を工夫したこと等により登録者も年々増えているため、今後、事業者数を増やすことなどが課題と捉えている。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>①市民がより情報を得やすくなるよう、子育てサイト及びアプリの適切な運用を行うとともに、リーフレットの配布を行うほか、メール配信サービス等様々な媒体によりさらなる情報提供に努める。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業を母子保健担当部署に事務移管することにより、育児不安を抱える保護者によりきめ細やかな支援を提供し、育児不安の解消を図る。</p> <p>※引き続き、子育て世代包括支援センターとして、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を充実させていく。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①子育てサイト及びアプリの継続した運営と幅広い情報提供を行っている事を評価する。新型コロナウイルスのためイベントが減り、孤立化して育児不安を抱える保護者もさらに増えていると思われる。新たに始った事業などの情報も提供し、適切な支援を選択することができるような総合的ウェブサービスの設置により、育児に係る不安を速やかに解消する機能をつくっていく事を早急に整備していく事を期待する。</p> <p>②産前産後家庭サポート事業は、きめ細やかな支援を提供し、育児に係る不安の解消等をはかられ、また、周知方法を工夫して、登録者も年々増えていることは評価できる。登録者増大に伴い、事業者数を増やすことなどを課題として捉えた取り組みに期待する。</p> <p>※子育て世代包括支援センターのコロナ禍への新たな対応。妊娠期から子育て期までの切れ目のない継続した支援を広げていく事を、今後期待したい。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	3	若い世代の出産・子育てへの希望の実現
基本的方向	1	若い世代が安心して出産や子育てができるまちづくり
具体的な施策	②	安心して子育てができる環境の整備
主担当課	保育支援課、子育て応援課、子ども家庭支援課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期に乳幼児の各種健診や訪問を行い、発育と発達の状況把握や疾病の早期発見に努めることにより、医療などと連携したきめ細かい保健指導を行います。また、各種予防接種を実施し、子どもの健康を守ります。 待機児童の解消に向け、既存施設の有効活用などのソフト面の手法と施設の整備などによるハード面の手法を併用することにより、保育サービス量の拡充に取り組むとともに、保育の質の向上を目指します。また、地域の様々な人材や団体、施設などの社会資源との連携や協働を図り、地域全体で子ども・子育てを支える環境づくりを進めます。 子ども医療費助成など、経済的な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 新生児訪問実施率	%	97.0					
		86.9	86.1	80.7	88.8	82.3	88.0
			B	C	B	C	B
② 特定教育・保育施設の数	箇所	54					
		47	50	52	54	57	60
			A	A	A	A	A
③ 安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合	%	50					
		48.5	50.3	49.6	49.7	50.3	54.1
			A	B	B	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①妊娠届出時に看護職による面談を行うことで、妊娠中から医療等関係機関と連携しながら、安全安心の出産及び子育て支援を行うことができた。</p> <p>乳幼児健康診査については、3、4か月児健康診査1,756人（97.7%）、1歳6か月児健康診査1,891人（94.8%）、3歳児健康診査1,987人（93.3%）と、高水準を維持した。定期予防接種については、予防接種ナビちっくん（令和元年度末11,854人と増加）及び里帰り先で接種した費用の償還払いを継続し、平均予防接種率は93.5%と、乳幼児健康診査と同様に高水準を維持し、子どもの健康維持の役割を果たした。新生児訪問については、里帰り先で訪問を希望した家庭63件にも里帰り先の自治体に訪問を依頼し、希望する方全員に訪問を実施することができた（都外里帰り出産出生数の約18%と推定。都外医療機関（助産院含む。）妊婦健診者数平成30年度334件、令和元年度339件）。新生児訪問を未利用の家庭については、3、4か月児健診等で状況確認を行った。新生児訪問においては、産後の母の状況及び発育状況の確認、子育て相談や情報提供を行える機会であるため、今後も引き続き、受診率を上げる取組を行う必要がある。</p> <p>②認可保育所（私立保育園）の整備事業候補者を公募し、選定した事業者候補に対する施設整備に対して開設準備支援を実施し、令和2年4月1日付けで認可保育所を4施設開設した。</p> <p>また、市内保育施設に対して、市職員による巡回支援や保育従事者を対象とした研修などを実施し、保育の質の向上を図った。</p> <p>③子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図るため、市内13か所で子育てひろば事業を実施したほか、市保育士やボランティアによる子育てひろばや市民団体の子育てひろば活動への補助を行った。また、義務教育終了前までの児童を対象に、医療費の助成や児童手当の支給を行い、子育て家庭の経済的負担の軽減を図った。</p>
A	

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①乳幼児健康診査や定期予防接種などの事業の実施率は高水準を維持することができた。妊娠届出時の看護職の面談や産後の母子の心身のサポートをする産後ケア事業を開始したほか、B型肝炎ワクチンの定期接種化、新生児聴覚検査の費用助成など、母子の健康を守るサービスを充実することができた。</p> <p>令和元年度からは子ども家庭支援センター「たち」と福祉保健部健康推進課母子保健係が統合されて子ども家庭部子ども家庭支援課となり、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の体制強化ができた。</p> <p>②計画的かつ継続的な施設整備により、認可保育所等の定員増を図ることができた。また、認可外保育施設利用者への補助拡大や私立幼稚園における幼稚園型一時預かり事業等の実施に加え、保育コンシェルジュによるきめ細やかな相談対応など、施設整備以外にも様々な取組を進め、待機児童を減少させることができた。</p> <p>③子育てひろばが11か所から13か所に増え、子育て中の親の孤立化の防止や子育て不安の解消を図ることができた。また、法令等に基づき、手当・医療費助成を継続実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>①妊娠届出時の看護職による全件面接を継続し、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援及び必要に応じて保健師の継続相談等につなぐ早期支援の体制を維持していく。また、面談を受けた妊婦に対し、新型コロナウイルス感染症対策を含めた育児パッケージの配布を開始するとともに、産後の母子の心身のサポートを充実させるために開始した産後ケア事業を継続する。定期予防接種ではロタウイルスワクチンを新たに導入する。コロナ禍の中でも感染防止に配慮した各種母子保健サービスを実施する。また、新型コロナウイルス感染症に伴う育児不安などに個別に丁寧に対応し、母子の健康を守っていく。</p> <p>②引き続き、待機児童解消に向けて、認可保育所2施設の施設整備を行うほか、保育コンシェルジュによる相談窓口業務を通じて、各子育て世帯に応じた保育サービスの提案を行う。</p> <p>③地域で子育てひろばを展開するとともに、市立保育所の地域子育て支援拠点の整備を進める。また、法令等に基づき、手当・医療費助成を継続実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>子育て支援の取り組みの拡充がすすんでおり、安心して出産、子育てのできる街に向けた環境整備は着実に進んでいると評価できる。</p> <p>① 乳幼児対象の各種検診の受診率が高水準であることに加えて、里帰り出産の家庭には里帰り先の自治体への訪問依頼を行うなどきめ細かいケアが行われている。今後は妊娠期から子育て期までの継続した支援体制の継続、強化が期待される。</p> <p>② 近隣の自治体とともに待機児童問題は深刻な状況にあったが、認可保育所、認証保育所の定員増がすすみ、令和元年度は待機児童数が大きく減少している。</p> <p>③ 子育て中の親の孤立防止、子育て不安解消の取り組みも継続した取り組みになっており、子育て家庭の経済的負担の軽減策とともに、安心して子育てのできる街という市民意識にもつながっている。</p>
A	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策		防災・防犯体制の強化
主担当課	防災危機管理課、地域安全対策課	
施策概要	・全ての市民が安心して暮らし続けられるよう、地域の防災・防犯体制を強化するとともに、災害に強い都市基盤づくりを進めます。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
日頃から家庭で災害に対する備えをしている市民の割合	%	80.0					
		62.2	57.4	62	55.8	66.8	68.8
			B	B	C	B	B
地域安全リーダー講習会受講者数	人	450					
		311	332	354	374	387	400
			A	A	B	B	B

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
 B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>防災訓練及び出前講座の実施、防災情報誌「自主防災ふちゅう」を配布し、市民による自助の必要性や、各家庭で取り組むことのできる防災対策について説明した。また、文化センター圏域自主防災連絡会を開催し、地域での共助の取組についての啓発を行った。</p> <p style="padding-left: 40px;">防災訓練.....107回 参加人数 18,320人 出前講座.....16回 文化センター圏域自主防災連絡会...21回 参加人数 422人</p>
B	<p>防犯体制の強化について</p> <p>地域安全リーダー講習会については広報ふちゅうや課が発行する広報誌「ニュースまちかど」、メール配信、警察や各協力団体へ広く呼びかけを行い、昨年度と同数の13名が参加した。参加者の層は学校見守りボランティア関係者、自治会、警察協力団体等がメインであった。参加者のうち7名が女性の参加者であり、女性の防犯意識の向上と活躍の幅を広げることができ、活気ある講習会を実施した。</p> <p>また、寸劇防犯講話については年1回バルトホールを使用して実施し、約300名の参加者に特殊詐欺の最新情報を交えた寸劇を実施し好評を得た。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>同じ地域に住む自治会等の団体が防災について情報共有できる場として、文化センター圏域自主防災連絡会を創設した。自主防災連絡会の中で、他の団体の取組を参考にして防災活動を始める団体が出てくるなど、一定の効果があったと考えられる。</p> <p>また、自主防災連絡会の活動が、各団体の防災訓練のマンネリ化の防止や、これまで地域の防災活動に無関心だった住民の防災活動への参加など、地域の防災活動の活性化につなげることができた。</p>
B	<p>地域安全リーダー講習会の総括</p> <p>市内の刑法犯認知件数は、5年連続で減少（平成27年中は1,872件、令和元年中は1,450件 年度ではなく、年単位での統計）しており、リーダー講習受講者を中心とした地域防犯活動もこれに貢献できていると考えている。毎年一定数の参加者は確保しているが、参加者がやや減少傾向にある。今後はさらに若い世代の参加者を増やしていく必要があるため、開催の呼びかけ方法を工夫するなど、周知を図っていく。</p>

【令和2年度における取組など】

・今後も、自主防災連絡会のみならず、防災訓練や防災出前講座、防災情報誌の発行などをおし
て更なる啓発が必要だと考えられる。

特に令和元年東日本台風の経験から、水害に対する市民の意識が高まっているため、水害時にお
ける自助・共助や各自で行う備えについて啓発していく。

・地域安全リーダー講習会は、毎年市役所会議室や府中警察署で実施し、市役所・警察署周辺をパ
トロールし防犯マップの作製等をしてきた。令和2年度については防犯協会とも協議をした結果、
白糸台文化センターを使用し、東部地域における犯罪の特徴の説明なども講習に取り入れ、東部地
域に密着した形での開催を検討している。令和3年度以降は、令和2年度の実施状況を踏まえたう
えで、各文化センターを拠点に、地域に密着した形での実施も視野に入れていく。

また、「ながら見守り連携協定」締結企業等へも参加を募るなど、幅広く市民の参加を呼び掛けて
いきたい。

評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会
評価

防災訓練だけではなく、文化センター圏域自主防災連絡会における地域ぐるみの
活動で、安否確認を全ての圏域で取組むなど今後の防災意識を高める上で有効だ
と評価できる。

自然災害に対する市民の意識も高まっているからこそ、更なる防災についての周
知、情報発信を継続してほしい。

B

地域安全リーダー講習会は参加者増に至っていない。

参加者の半数が女性だったことは大きな成果と評価できる。

今後の対策として、若年層市民の参加を増やすことをメインに検討いただきたい。

文化センターでの地域に密着した講習では、親子、祖父母と小学生（孫）との参加
など広く呼びかけて、次につなげてほしい。

評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。

B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。

C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	1	みんなが安心して暮らせる地域づくり
具体的な施策	②	公共施設・インフラの計画的な管理及び運営
主担当課	建築施設課、道路課、公園緑地課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメントの取組として、公共施設の最適化と計画的保全に努め、市民が将来にわたり良好な環境で施設を利用できるよう努めます。 ・老朽化が進むインフラ（道路・公園等）を長期にわたり安全に管理していくため、インフラマネジメント計画に基づき、推進します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 公共施設の市民1人当たりの延床面積	㎡/人	現状維持					
		2.52	2.49	2.48	2.60	2.53	2.54
		/	A	A	B	B	B
② 公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度	%	74.0					
		70.3	70.0	70.6	71.1	68.3	66.0
		/	B	B	B	C	C

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに基づき、各施設において、最適化と計画的保全の取組を着実に実施し、順調に進捗している。特に、当該プランで定める、市民保養所「やちほ」と八ヶ岳府中山荘、生涯学習センターの宿泊施設を対象とするモデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」については、有識者や公募市民等で構成する検討協議会から受理した報告書を踏まえ、基本方針の策定に向けて関係課や関係団体等と協議・調整を行った。また、保育所と学童クラブ、子育て支援センター「たちち」を対象とするモデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」については、試行的に実施し、次年度以降に向けて効果の検証を行った。</p> <p>②インフラマネジメント計画（2018年度）の短期計画（平成30年度から令和3年度）の進捗状況は、63件の取組の内、運用している件数が10件増加し46件となり、運用に向け検討を進めている件数は3件増加し、15件となった。このことにより、未着手は、2件となっている。</p> <p>また、具体的な取組は、インフラの老朽化対策として、擁壁などの大型構造物の点検、橋りょうの補修、道路等包括管理事業（北西地区）の中間評価及び次期同事業の運用方針（案）の作成を行った。</p> <p>街路樹や公園樹木については、引続き、安全性の確保、健全な育成、良好な環境と景観形成のため、剪定、間引き、枯損木の伐採など、適切な維持管理に努めた。</p>
B	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>①第1次府中市公共施設マネジメント推進プランにおいて、最適化と計画的保全の取組を進めていく中で、府中グリーンプラザは施設の廃止後、民間活力の導入として、民間事業者へ施設の譲渡を行い、新たな活用を図ったほか、府中駅周辺の公共施設の機能を整理し、集約等を行った。また、学校プールの地域開放や、地域プールの廃止の決定も行った。平成29年度末に第1次推進プランの計画期間が満了したことに伴って、第2次推進プランを策定し、継続的に最適化と計画的保全の取組を進めた。第2次推進プランでは、モデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」のほか、モデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」に取り組み、公共施設における最適化と計画的保全の取組を進めることができた。なお、KPIの実績値については、現状よりも高くなっているが、今後、矢崎幼稚園や市営第二の二本町住宅など、廃止後も現存している施設の解体等を行うことで、数値は下がるものと見込んでいる。</p> <p>②インフラマネジメントシステムによる情報基盤の整備、道路等包括管理事業の試行による官民連携の推進、道路法の改正などの社会情勢の変化に対応するためインフラマネジメント白書（2017年度）の作成及びインフラマネジメント計画（2018年度）の策定などを行い、同計画における短期計画の取組63件のうち運用が46件、検討中が15件、未着手が2件となり、目標達成に向け早期に推進できている。また、市内の緑を適切に維持管理するため、街路樹の管理方針の作成及び緑の基本計画の改定を行った。</p> <p>インフラの計画的な管理及び運営は、社会基盤である道路、公園、下水道等広範囲を対象としており、施策全体の計画であるインフラマネジメント計画の取組については、目標達成に向け順調に進捗していると評価する。</p> <p>なお、当該施策の重要業績評価指標（KPI）として設定した「公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度」については、目標値に届いていないものの、市民意識調査の満足度としては全施策中の第1位という高い水準を維持している結果となっている。</p>
B	

【令和2年度における取組など】

- ①引き続き、第2次推進プランに基づく、各施設における最適化と計画的保全の取組の進捗状況を管理していく。モデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」では、基本方針の策定に向けて、引き続き、関係課及び関係団体と調整を行う。モデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・管理」では、試行期間の中で効果の検証を行うほか、対象範囲や業務範囲等に係る様々な検討を行う。また、令和3年度末に第2次推進プランの計画期間が満了することに伴い、継続的に公共施設マネジメントに取り組むための次期推進プランを作成する必要があるため、その準備として、公共施設の利用状況やコスト状況を集計・分析した公共施設マネジメント白書を作成する。
- ②インフラマネジメント計画（2018年度）の未着手2件の検討を行うほか、令和3年度からの道路等包括管理事業の本運用に向け、市全域を3地区に分割しての受注候補者の選定、業務の効率化及び官民連携の推進を目的としたデジタル技術の活用検討、道路舗装長寿命化修繕計画の策定、歳入の確保、維持管理など公園の在り方の比較検討など、インフラマネジメントの推進を図る。また、街路樹の管理方針及び昨年度に改定した緑の基本計画2020に基づき、引き続き、緑の保全や景観に配慮し、街路樹や公園樹木の適切な維持管理を行う。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	<p>①K P I 公共施設の市民1人当たりの延床面積については、元年度は2.54 m²/人と現状を維持しており順調な推移と評価される。また、第2次府中市公共施設マネジメント推進プランの進行度合いについては、順調な進捗状況である。特に、市内3箇所の宿泊施設を対象としたモデル事業3「宿泊機能・サービスの今後の在り方」については協議会での検討・協議もまとめ、検討協議会から受理した報告書を踏まえた基本方針の策定についての協議・調整も行っており、今後の具体的な事業の検討・立案に向けた活動等が期待される場所である。また、保育所と学童クラブ、子育て支援センター「たち」を対象とするモデル事業4「包括管理業務委託による公共施設の維持・保全」についても、試行実施および効果検証も行っており、公共施設の最適化と計画的保全についての取組の進捗状況は良好に推移していると評価される。</p>
B	<p>②インフラマネジメント計画については、63件の取組の内、未着手が2件のみとなっていること、インフラ老朽化対策等様々な具体的な取組が実施されていることから、順調な進行度合いと評価される。反面、K P I 公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度が66.0と年々低下しており、目標達成は難しい。市民の満足度向上にむけた取組の改善・工夫が必要である。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化
具体的な施策	①	地域交流・活動の促進
主担当課	地域コミュニティ課、協働推進課、指導室	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会的な孤立を防ぐとともに、子どもや学生が地域づくりに関わる機会を持てるよう、幅広い世代の交流を促進し、地域社会を支える共同体の機能を深めます。 ・相互友好協定を結んでいる東京外国語大学及び、東京農工大学及び明治大学をはじめ、市内の企業や市民活動団体等と連携することで、地域課題を市と市民が協働して解決する体制の整備を目指します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 各文化センター圏域でのコミュニティ事業参加者数	人	231,000					
		222,427	228,575	238,754	236,873	228,588	182,514
		/	A	A	A	A	B
② 市と大学や企業等が協働実施している事業数	事業	現状値以上					
		59	56	41	43	54	55
		/	B	C	B	B	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①地域の特色を活かした各種行事を、地域の人々が参加しやすい工夫を凝らしながら市民と協働し実施することができた。圏域ごとの課題への対応については、他センターの成功事例を参考にしたり、人気講座の回数を増やしたりして、改善を試みている。</p> <p>事業参加者数の減少は、地域まつり開催時期の悪天候や台風 19 号の上陸による事業の中止、また年度末の新型コロナウイルス感染拡大により事業が中止になったことによる影響があった他、例年同様に実施する事業においては、目新しさが不足する側面があったことも原因の一つとして捉えている。</p>
B	<p>②大学との連携については、市内の大学や協定を結んでいる市外の大学と継続して協働事業を実施し、良き協働のパートナーとなっている。企業との連携については、新たな企業と包括協定を締結し、従来から締結している企業と併せて庁内に活用を促す取組を実施した。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>①各地域の特色を活かした圏域住民のニーズを勘案した事業を企画、実施することができた。コミュニティ協議会は自治会・PTA・青少対をはじめ、市民活動の中心的な団体で構成されているため、協議会主催の事業を協働で実施していくことにより、地域の結束力を高め、災害時にも共助できる人間関係の形成につながっている。コミュニティ協議会の存在と協議会が展開する事業が、人間関係が希薄になる現代社会において、地域の繋がりを強化する役割を担っている。</p> <p>協議会委員の高齢化、固定化の傾向がみられる点と参加者数が横ばい状態になっている点が憂慮されるが、近年は消防署や地域包括支援センター、防犯協会、社会福祉協議会など幅広い組織の協力もあり、コミュニティ事業のさらなる発展につながると考えている。</p>
B	<p>②大学との連携については、市内の大学と継続的に協働実施を行えており、良き協働のパートナーとしての関係を築けている。企業との連携については、個別協定や包括協定を締結している企業等と連携して事業を実施している。包括協定締結企業も3企業に増えており、庁内に活用を促す取組も実施した。</p> <p>事業数の増加については、やや遅れているため、今後も引き続き、担当課と協働推進課と連携しながら事業数の増加を目指したい。</p>

【令和2年度における取組など】

①各コミュニティ協議会が計画していた事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から軒並み実施できない現況であるが、「新しい生活様式」を考慮しながら、従来とは違う事業展開の方策を講じ、将来的に継続して取り組む必要がある。

②大学との連携については、引き続き、市内の大学や過去からの協働実施している大学と事業を実施する。企業との連携については、引き続き、個別協定や包括協定を締結している企業等と事業を実施するとともに、事業内容の更なる充実のため、新規開拓を含めて実施していく。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	<p>①について、事業参加者数の大幅減（前年比：-46,074人）は新型コロナウイルスと悪天候（含：台風19号等）が影響していると推察される。前者に関しては当面の間、終息の目途が立たない状況下であり、“ウィズ・コロナ”の観点から3密回避など十分な対策を施したうえでの事業開催のあり方の検討が重要となる。こうした対応が遅れた場合、事業参加者数に留まらず事業数の大幅減の可能性もありえるので喫緊の対応を期待したい。これと併せて、コミュニティ協議会委員の世代交代など、事業の次世代への継承に向けた運営面での取り組みへの着手にも期待したい。</p>
B	<p>②については、昨年度からも1事業増加しており、急激な減少（-15事業減）となったH28以降、事業数が継続的に増加傾向にある点は高く評価できる。また、昨年度に指摘した企業等との連携数が増加している点も評価に値する。しかし、次年度は、新型コロナウイルスによる影響を極力回避するため、3密回避を基本方針としつつ様々な観点（事業内容、開催方法など）から対策を講じることが必要である。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保		
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化		
具体的な施策	②	空き家などの活用		
主担当課	環境政策課	関連課	住宅課、地域コミュニティ課	
施策概要	・空き家や空き店舗などは、地域活動に活用できる重要なストックであることから、これらを有効活用し、地域コミュニティ拠点の整備などを目指します。			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 空き家等を活用した コミュニティ活動 事例	人	実施					
		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
			C	C	B	B	B

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、空き家の発生予防や空き家の利活用・適正管理を市民に周知・啓発するため、空き家の適正管理や実家の相続等に関するセミナーを1回、空き家の適正管理に係る啓発用DVDを用いた勉強会を3回開催し、合計80名の参加があった。また、セミナー終了後に実施した個別相談会には13組の参加があった。 ・空き家を所有する市民等からの賃貸・売買・適正管理等の様々な相談に適切に対応するため、関係機関と連携した相談体制を令和2年度から設けられるよう準備を進めた。
B	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年5月に空家等対策の推進に関する特別措置法が全面施行され、本市においても平成28年度より「府中市空家等対策協議会」を設置・運営するとともに、平成30年度を初年度とする「府中市空家等対策計画」を策定し、本市の空き家対策の基本方針の制定や実施体制の確立など、空き家対策の推進を図ってきた。 ・空き家の利活用・適正管理に係るセミナー・個別相談会等を継続的に実施することにより、多くの市民にその重要性を周知・啓発することができた。 ・空き家の有効活用による地域コミュニティ拠点の整備については、他自治体での実施例などを参考に検討を行っている。
B	
【令和2年度における取組など】	
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利活用について、府中市空家等対策計画に則り、空き家対策は所有者等による自己管理にあるという原則との整合を図りながら進めていく。 ・空き家の利活用・適正管理に係るセミナー・相談会を引き続き実施し、市民の空き家に関する理解を深め、利活用等につなげていく。 ・空き家の賃貸・売買・適正管理等の相談に対し、関係機関と連携した相談体制により適切に対応する。 ・空き家を地域資源として活用できるよう、地域コミュニティにおける人材と空き家をマッチングする具体的な手法について検討を行う。 	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の発生予防や空き家の利活用・適正管理を市民に周知・啓発するためのセミナーや勉強会などを開催し、セミナー終了後の個別相談会を継続して実施されたことを評価する。 ・空き家を所有する市民等からの様々な相談に対応し、関係機関と連携した相談体制の準備が進められ、利活用等につなげていく取り組みにも期待する。 ・空き家等を活用したコミュニティ活動事例は、まだ未実施である。空き家を地域資源として活用できるよう、地域コミュニティにおける人材と空き家をマッチングする具体的な手法や他自治体での実践例として紹介したリトルワンスの母子家庭を対象にした居住支援などを参考に検討を行っていくとの事。また、コロナ禍などで始まった活動としてフードバンクやフードパントリーなどの活動拠点を探していると聞く。今後様々な空き家の利活用の検討を進め、地域コミュニティ活動が実施されることを期待したい。
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
（地方創生関連交付金対象事業）
【対象：令和元年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:令和元年度)

事業名	百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	①	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進
主担当課	観光プロモーション課	
事業概要	・国内外で普及しているかるたコンテンツやかるたを題材とした人気漫画「ちはやふる」を活用し、同作品ゆかりの地である滋賀県大津市、福井県あわら市、東京都府中市の3市と、関連企業、商業施設などが官民で連携することで、かるたコンテンツを発信し国内外からの観光客を誘致します。	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		85,279	88,100	90,224	90,316	88,769
		※平成26年度の実績	A	A	A	A
② 京王線分倍河原駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		89,249	92,493	94,116	95,736	95,121
		※平成26年度の実績	A	A	A	A
③ 府中市主要観光施設(観光情報センター・観光物産館・郷土の森博物館・美術館・JRA競馬博物館・サントリー武蔵野ビール工場)観光入込客数	人	1,000,000				
		819,625	956,817	939,931	845,167	933,631
		※平成27年度の実績	A	B	B	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	○漫画「ちはやふる」を活用した複製原画展を企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。また、府中多摩かるた会連盟（府中白妙会）が主催する初心者かるた大会については、平成30年度に引き続きその開催に協力し、準備が進められたが、大会は開催直前にコロナ禍のため中止となった。 東京都補助金を活用して漫画「ちはやふる」のデザインマンホールを作成し、メディア向け先行展示会を行ったところ、多くのメディアに取り上げられたほか、屋外で3密を避けて市内を回遊できる観光資源としてSNSでも広まったことから、多くの観光客が市内を訪れた。
A	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	○令和元年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためイベントを実施することができなかったが、5年間継続してコンテンツを活用して、施設のラッピング、デジタルスタンプラリーやデザインマンホールの製作等の企画を実施し、本市の魅力を高め、知名度を向上させる活動を行い、イベント等を継続的に実施し、誘客・回遊を促進した。
A	
【令和2年度における取組など】	
○令和元年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした複製原画展を開催予定である。また、市内の回遊を促す連動企画として、ステッカーラリーを実施する予定である。ラリースポットに複製原画展の会場を加え、相乗効果で集客を図る。なお、イベント実施時には感染防止対策として、検温や消毒、入場制限等を行いながら、安心安全な実施を心がける。 ○また、毎年実施している初心者かるた大会については、引き続き府中多摩かるた会連盟に協力して実施する。	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>かるたコンテンツについては、官民連携事業が継続して実施され、令和元年度においても様々な取組の準備が進められたが、年度末に春休みに合わせて予定されていた事業については、コロナ禍により実施することができなかった。指標数値の推移や5年間の取組からみると、着実に進めることができたといえる。</p> <p>指標①及び②については、利用者数は昨年度と比較した場合、若干減少している状況にあるが、利用者数がキープできているとの判断から評価できる。</p> <p>指標③については、昨年度より観光入込客数は増加しているものの、目標数に届いていない。</p>
A	<p>今後はさらに市内回遊、全国への発信・観光に資する取組が期待される。令和元年度においては企画を年度末にまとめていたことにより、コロナ禍の影響を全面的に受けたことが反省点ではないか。夏の企画、冬の企画等分散して開催する工夫をしていただきたい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:令和元年度)

事業名	ラグビーのまち府中推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを新たな地域資源として捉え、様々なイベントの実施などによりラグビー人気の定着を図るとともに、PR活動の推進、市内の子どもたち向けラグビー教室の開催などにより、市内外において「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させます。 ・「ラグビーのまち府中推進委員会」を立ち上げ、イベントの実施などを官民協働で実施することで、まちの賑わいづくりにおける共通認識とビジョンの共有を図り、将来の中心市街地活性化および商業の活性化に繋がります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標 (H28 年度)		目標 (H31 年度)		
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① ラグビーに関連する特産物や商品、飲食メニューの開発 (市内ラグビー関連スポット)	件	5		20		
		0	3	3	3	8
		※平成27年度の実績	B	C	C	B
② 市内でのラグビー関連イベントの参加者	人	5,000		10,000		
		1,500	7,500	8,750	9,180	240,530
		※平成27年度の実績	A	A	A	A
③ 大学やトップチームと連携するラグビー関連事業数	事業	2		9		
		2	5	8	12	20
		※平成27年度の実績	A	A	A	A

④	休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
			19,378	15,586	25,500	26,232	28,330
			※平成27年度の実績	C	A	A	A
⑤	市内にラグビーチームが存在することを認知している市民の数 ※市政世論調査に基づく推計値	人	257,650				
			128,052	—	171,853	199,677	169,373
			※平成27年度の実績	—	A	A	B

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>令和元年度は、「ラグビーのまち府中推進委員会」の活動が4年目となり、前年度までの取組に加え、RWC2019の開催に伴い、公認チームキャンプ地及び「ラグビーのまち府中」のPRのため、関連事業を実施し、事業の拡大を行った。</p> <p>指標②③の関連では、トップリーグ2チームや市内ラグビーチーム、市民団体との協働事業を継続拡大し、参加者・事業者数ともに増加となり、市民認知度もほぼ横ばいを維持している。指標①に関連するラグビー関連商品等の開発販売についてはRWC2019開幕直前に放送されたTBSドラマ「ノーサイドゲーム」とのコラボ商品の開発が進み、数が増加し、大きくPRを行うことができた。</p>
A	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>平成28年度よりラグビーを地域資源として捉え、「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させるために、ラグビーのまち府中推進委員会を中心に官民協働で様々なイベントやPRを展開し、令和元年度のRWC2019を一つの目標として、気運醸成を図ってきた。指標①について伸び悩んでいたが、RWC2019開催年となった令和元年度に開発が進み、目標値には届かないものの増加した。指標の②③は大きく目標を上回ることができた。なお、本事業が平成29年度より国の交付金の対象事業となったことに加えて、指標②③については、期間中に目標値を上回ったことから、指標①から③について目標値の修正を行っている。⑤は目標値には届かなかったが、一定数の増加が達成できた。集大成となった令和元年度は、RWC2019の公認チームキャンプ地となり、パブリックビューイング等のイベントが大いに盛り上がり、国内外から多くの来訪者があり、多数のメディアにも取り上げられ、「ラグビーのまち府中」を全国に広くPRすることができた。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>令和2年度は東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年であったが、新型コロナウイルスの影響で令和3年度へ延期となった。7人制ラグビー日本代表の受入れは、継続的に実施していくため、キャンプ地のPRと一体となって「ラグビーのまち府中」PR事業の相乗的な展開を図っていく。</p> <p>①のラグビー関連商品開発については、引き続き、商工会議所・商店街連合会のほか、庁内関係部署、観光協会・まちづくり府中、市内事業者等と連携し、商品開発に限らず、飲食店のメニュー開発などを広い視点で検討を進めていく。</p> <p>②③に関しては、令和元年度までの事業を継続して展開するとともに、東京2020オリンピックに関連したイベント（7人制ラグビー日本代表に関連したイベント）等を実施することにより、イベント参加者及び協働して実施する事業数の拡大を目指していく。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>令和元年度は、RWC2019 の開催年でもあり、公認チームキャンプ地及び「ラグビーのまち府中」の PR 事業が多数実施された。</p> <p>指標①のラグビー関連商品の開発について、目標が20件のところ8件であり、評価としてはB評価だが、テレビドラマとのコラボ商品の開発が進み、大きくPR出来たことは評価できる。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019以降も、継続した取組が期待される。</p> <p>指標②③では、トップリーグ2チームや市内ラグビーチーム、市民団体との協働事業の参加者・事業者数ともに増加しているとともに、市民認知度もほぼ横ばいを維持している。</p>
A	<p>指標④も目標値を上回った。集客やアピールは出来ているが、肝心の指標⑤の市民の認知度が下がっていることが気にかかる。市内の子供たちを対象にした取組(イベント)などで、ラグビーのまち府中を盛り上げていただきたい。</p> <p>5年間の総括としては着実に進んでいるが、コロナ禍にあって、気運を途切れさせることなく、工夫した事業展開を期待する。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象 : 令和元年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、産業振興課、観光プロモーション課、政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的なP R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1	1	0
		平成27年度の実績	A	A	A	A
休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500	26,232	28,330
		平成27年度の実績	C	A	A	A
大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334 (H27)	300 (H28)	350 (H29)	360 (H30)
		平成26年度の実績	B	B	B	A

東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
		17	100	66	44	52
		平成27年度の実績	A	C	C	C
東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
		104	17,190	8,465	2,236	4,149
		平成27年度の実績	A	C	C	C

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

*重要業績評価指標（KPI） 「大規模商業施設の年間販売額」につきましては、国に提出する「府中市中心市街地活性化基本計画」の定期フォローアップに関する報告書に記載された数値を使用しており、同報告書が毎年5月提出となっていることから、前々年度の数値を使用しています。これまで、評価票にこの事情を記載しておりませんでしたので、お詫びするとともに、年度表記を加えました。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>府中グリーンプラザ敷地活用事業については、平成29年度に締結した基本協定をもとに事業者と引き続き協議・調整を行い、新施設開業に向け準備を進めた。また、旧ふれあい会館については解体工事が完了した。</p> <p>一般社団法人まちづくり府中への委託事業として実施した「キテキテ府中マルシェ」は、5月と11月に開催し、多くの方にご来場いただいた。このほかにも、「むさし府中まちゼミ」などのソフト施策の充実、効果的な連携などにより、昨年度比増となった。</p> <p>一般社団法人まちづくり府中が主催する府中駅南口に立地する大規模商業施設間の合同セール「キテキテ府中」やラグビーワールドカップ2019の開催に伴い、飲食ブースやステージイベント等を組み合わせた「府中ストリートバル」を実施したことで集客増加に寄与した。大規模商業施設の年間販売額については、ル・シーニュの売上が年間を通して加算されたことにより、昨年度比で10億円の増加となった。</p> <p>令和元年度の取り組みとしては、例年秋競馬開催時期に合わせ実施していたものを、春競馬開催時期に合わせ実施したところ昨年度比増となった。</p>
B	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用に関して、旧ふれあい会館跡地に関しては、平成30年度に市事業の代替地として活用することとなったが、府中グリーンプラザ敷地活用事業については、平成29年度に事業者と基本協定の締結を行い、官民連携による活用に向け、着実に事業を進められている。 ・また、中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、平成28年12月に設立した一般社団法人まちづくり府中により様々な事業が展開され、中心市街地のエリアマネジメントが推進されている。これらの取組により、「休日のけやき並木通りの歩行者通行量」や「大規模商業施設の年間販売額」の指標については、目標値を超える進捗状況であるが、回遊性向上を図る東京競馬場タイアップ事業に関する数値については、目標達成に至っていない状況にある。 ・平成28年度では、国の交付金（10/10）を活用し、JRA東京競馬場から中心市街地への呼び込みに一定の効果があったものの、中心市街地内の回遊性に関する評価に課題があったため、平成29年度では、スマートフォンを活用したスタンプラリー形式で実施したが、スマートフォンをお持ちでない高齢者等が参加できなかったこともあり、利用者が減少してしまった。また、平成30年度以降は、期間を短縮してイベントを集中的に開催し、開催時期を秋から春に変更するなど取り組んでみたが、大きな改善には至っていない。 <p>今後は、春と秋の競馬開催に合わせた実施や周知等について、一般社団法人まちづくり府中を中心に、関係団体と連携強化を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き回遊性の向上には課題が残るものの、中心市街地の活性化については、関係団体との連携が図られており、着実に推進されているものと捉えている。
B	

【令和2年度における取組など】

府中グリーンプラザ敷地活用事業に係る民間事業者による新施設しゅん工に向け、関係者と調整を行いながら、着実に事業を進める。

市内外から多くの方に来訪いただくよう、新たな事業として「まちバル」や「ふちゅうパンマルシェ」などを実施し、回遊していただくための仕掛けづくりに努め、休日の歩行者通行量増加を目指す。

昨年9月末に伊勢丹府中店が閉店をしたことや新型コロナウイルスの影響により、府中駅周辺商業施設の売り上げに大きな影響を及ぼすものと想定されるが、これまで以上に関係者との連携強化を図りながら、集客増加に寄与するソフト事業の更なる充実を図ることで、目標達成を目指す。

東京競馬場とのタイアップ事業については、昨年度、春競馬開催時期のみの開催であったが、春及び秋競馬開催時期に合わせてそれぞれ実施することで、参加者増加を目指す。

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいの創出としての取組は、まちが整ってきたこともあり順調だが、競馬場とのタイアップ事業の停滞が気にかかる。 ・指標 については、ふれあい会館・府中グリーンプラザともに今後に向けた取組が順調に進行している。 ・指標 については、連携事業等の工夫が休日の歩行量増加につながっており、良好な推移となっている。 ・指標 については、大型商業施設間の連携強化等ソフト面の充実により、前年を上回る実績となっているが、数値は伊勢丹府中店閉店以前のもので、今後想定される閉店の影響をカバーできるよう、更なる事業展開を期待する。賑わい、回遊性の向上に努め、エリアマネジメントの推進を市として支援してもらいたい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・指標 は、目標値に届いておらず、このままでは目標達成が難しいが、昨年度に比べると増加しており、今後、春・秋競馬開催時期に合わせてそれぞれの実施について期待したい。

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。